

【資料】

身延山諸堂記

身延山再建諸堂記

身延山再々建諸堂記

校註・北沢光昭
編纂・身延山短大仏教文化研究所

○身延文庫所蔵の写本「身延山諸堂記」「身延山再建諸堂記」「身延山再々建諸堂記」により、文明六年、十一世行学院日朝上人の代、西谷から現在地に移転した諸堂の、大概明治・大正時代に至る諸堂塔変遷の状況を知り得る。殊に、文政七年・明治八年の諸堂焼失の現在にあって、その時々々の荘麗なる寺観を窺うに欠かせぬ、集成された記録として唯一のものである。

○該記録は全三巻三冊よりなり、第一巻は題外「身延山諸堂記き」(題内「身延山諸堂塔建立記録」)、第二巻は題外「身延山再建諸堂記き」(題内「身延山再々建立記録」)、第三巻は題外「身延山再々建諸堂記き」(題内「身延山再々建立記録」)である。

○該記録の体裁は、第一巻は、縦二二・三センチメートル、横一五・六センチメートル、二十行野紙の袋綴、板心の表側に丁数を記している。丁附は一四二であるが、墨付一四〇丁である。第二巻は、縦二二・六センチメートル、横一五・九センチメートル、十八行野紙の袋綴、板心に項目を記し、その表側に丁数を記している。丁附は一四九墨付は一四一丁。第三巻は、縦二二・七センチメートル、横一五・六センチメートル、二十行野紙の袋綴、板心に項目を記し、丁附は板心の表側の欄外上に記し、この巻は特に加筆を見込んだ白紙が多い。丁附は二〇一、墨付は三五丁。

○該記録は、身延山三十三世遠沾院日亨上人による正徳二年の正本(第一巻一〇六丁表)を、妙俊院日寿上人が嘉永七年に写した(第一巻一丁表)事に始まり、以後、主に日寿上人による追加記録(第一巻二丁表・一〇七丁表)である。

第一巻は、前述の嘉永七年二月の写本と、日寿上人による補足・追加の記録で、主として文政年中の火災以前の状

況が知られる。第二巻は、安政四年三月に記録を編集したもので、文政年中の再建から、明治八年焼失の堂塔が中心の記録である。第三巻は、明治八年一月より記録を始めたもので、大火災後の復興状況が知られる。この為に全体に亘って記録予定を見越んだ白紙が多い。

妙俊院日寿上人の略伝は、「身延山史」三四三頁（新版「身延山史」三三二頁）にあるので詳述を避けるが、終生身延にて生活し、明治大火災後の諸堂宇再建計画の実施に参画した事は第三巻中に見える所で、「身延山史」の編纂者の「現存せる祖山の古記録は……師が丹精の賜物」の言を俟つまでもなく、質・量ともにこの三巻三冊の記録は、身延山史に欠くべからざるものである。

○日亭上人による正本が正徳二年に成立した事は先に述べた所であるが、改定稿本も存在した。それは宮内庁書陵部所蔵の写本「^{甲州}身延諸堂細調録」（『身延山久遠寺諸堂等建立記録』四十五丁と『身延山御歴代譜』の二部より成り、全五十一丁、一冊）に記載する原本の奥書により知られる。改定稿本は「正徳三竜集癸巳春改之書」したものである。

書陵部所蔵本は、安政六年十月、信州松本「迦葉山妙福寺日胎聖人原本」による鍊頭上人の写本である。

書陵部所蔵本の堂塔記載の順序は身延文庫所蔵本と異なるが、目次に丁数を参考として付記した。この写本の全文は「御本尊鑑 遠沾院日亭上人」（藤井教雄編・昭和四十五年十一月刊・身延山久遠寺発行）の第二部に活字化されている。（但し、丁付はない。）

○諸堂の旧観を知る手掛りとして、数多くの地誌・紀行なども見逃せない。本稿ではこの点の詳述を目的としないので、書名を列記するに止めるが、一般的に地誌の類に諸堂等の記述が詳細に亘るのは、「案内」を主内容とするの

で当然であり、他方、紀行の類は「実感」が中心であれば、描写に特色を有するものが少なくない。主な著述は次の如くである。

△地誌▽「久遠寺参詣記」(延宝九年刊『日蓮上人御伝記』巻十)、「身延鑑」(貞享・元禄・宝暦・天保の各版)、「みのぶ山ひとり案内」(安永九年刊一冊、北沢光昭蔵)、金子日徳著「延嶺袖鏡順詣記」(文政二年成立、版本、他の二書と合一冊、無窮会^{神智蔵}蔵)、村上某著「甲州嘶」(享保七年成立)、鶴風子著「裏見寒話」(宝暦二年序文)、大森快庵著「甲斐叢記」(前輯、嘉永四年刊)

△紀行▽元政上人著「身延行記」(寛文三年刊)、享弁(法住院日義上人)著「萩の名ごり」(延享四年成立)、篤子刀自著「安永身延紀行」(安永五年成立)、稻懸棟隆著「身延の杖」(同年成立)、佐竹邦著「身延紀行」(寛政元年成立、写本一冊、宮内庁書陵部蔵)、加賀屋善蔵?著「おさな車」(寛政九年成立)、吉沢某著「道記」(文政元年成立、原本?一冊、最首雅晴氏蔵)、清水浜臣著「甲斐日記」(文化年中成立)、日擬上人著「延山紀行」(文政十三年成立)、小林文五郎・同保蔵著「身延山久遠寺詣日記」(弘化二年成立、写本一冊、東北大学^{特研蔵}蔵)、黒川春村著「並山日記」(嘉永三年成立)、松亭金水著「松亭身延紀行」(万延元年成立、写本一冊、国立国会図書館蔵)、霞江庵翠風著「甲州道中記」(慶応二年成立)

右著作中、その刊本・写本等の所蔵先を明示しないものは、先人の紹介が既にあつたものである。地誌・紀行は他にもあり、文芸作品・絵図・錦絵など加えると、五十点を越えるものがみられる。

各所蔵先より資料の御提供を受け、鶴岡節雄氏よりは種々御教示を受けました。厚く感謝の意を表します。

○全文の翻刻にあたって、次の様にした。

身延山諸堂記外(北沢)

身延山諸堂記外（北沢）

- ・ 丁付を示す数字と、その丁の「表」を「オ」と、「裏」を「ウ」として本文の上に示した。
- ・ 頁と丁の終りにあたる部分は』により示し、行末は「で示した。
- ・ 漢字は、旧字・異体字など、ほぼ通行のものに直した。
- ・ 明らかな誤字は直したものもある。宛字・送り仮名など、通行でないものに（ママ）と付した。
- ・ 項目毎に「註」として記したものは、頭註・脚註・押紙であるが、本文中の該当箇所、又は近い箇所を以て(1)(2)等と示した。朱字の記載はその旨を示し、頭註・脚註・押紙の別は最後に示した。
- ・ 該記録原本で使用されている特殊な送り仮名「ㄱ」・「ㄴ」・「ㄷ」・「ㄹ」は、夫々に「コト」・「シテ」・「ナリ」・「トモ」のように改めた。

○今回は第一巻「身延山諸堂記」の全文を翻刻する。

目次

。堂塔の下の漢数字は「巻数」を洋数字は「丁数」を示す。
 。() 内の数字は、書陵部本の丁数を示す。

惣門	— 2	201	(12)	位牌堂 ^{祖師堂ノ}	— 15	244	246	297	(5)
逢島ノ祖師堂	— 2	134	(12)	本地塔 (堂)	— 15	290			(5)
太平橋	— 3	141	(13)	二重宝塔	— 16	266			(1)
稻荷大明神社・拜殿	— 3		(13)	灯主堂・万灯室	— 19	270			(5)
三門・廊門	— 4	50	370	鼓樓 (堂) ^{灯籠}	— 19	278	2103		(8)
三門常唱堂・頭寮・香積・結衆寮	— 4	50	370	円師堂	— 20	263			(7)
同常作事長屋	— 8		(12)	椎鐘堂・番部屋 (大鐘樓)	— 21	284	225		(7)
(重栄梅) 天神宮・雨屋	— 9		(12)	舞台	— 23	274			(6)
(聖徳) 太子堂	— 9		(11)	同菜屋・廊下	— 23	274			(6)
浴室	— 9		(11)	普請所長小屋	— 23	274			(6)
石壇	— 9	127	(13)	供厨 (御供所)	— 24	2101			(7)
二天門 ^{水鉢}	— 10	54	103	通本橋・回廊 ^{位牌堂ノ}	— 26	297	2106		(9)
本堂 ^{水鉢} 燈籠	— 11	31	103	十二時鐘・番寮	— 27	23			(13)
祖師堂 ^{水鉢・宝塔・燈籠} 出仕ノ	— 12	24	25	釈迦堂	— 27				(13)
祖師堂 ^{水鉢・宝塔・燈籠} 本堂ノ下ノ	— 12	24	25	奥位牌堂	— 32				(16)
	— 94	296	297	納骨堂土蔵	— 32				(16)
	— 94	296	297	〓本院之分〓	— 27				(16)
	— 94	296	297	中門 (脚門) 長屋	— 29	139			(16)
	— 94	296	297	谷次大門	— 29	171			(16)
	— 94	296	297	葬門下馬札	— 30				(16)

身延山諸堂記外 (北沢)

身延山踏堂記外(北沢)

塩沢口(札)	—	30	(16)
会合所・玄関式台	—	31	(14)
厨子(司)	—	34	(16)
対面所・次間	—	34	(16)
小方丈	—	35	(17)
大方丈・唐門・浴所	—	36	(17)
藏經堂(一切経藏)	—	37	(17)
<small>唐本一切経 唐小鏡</small>	—	139	(185)
(真骨)宝藏	—	40	(19)
宝藏中央・廊下	—	44	(21)
同拝殿	—	45	(21)
奥位牌堂	—	47	(22)
古仏堂	—	48	(22)
靈宝藏・拝殿	—	51	(23)
東土藏	—	52	(24)
経堂前ノ庭泉水等	—	53	(24)
廊下七ヶ所	—	53	(24)
(奥)書院・学問所・休息所	—	53	(24)
料理所	—	54	(25)
湯浴所	—	54	(25)
金支配部屋	—	54	(25)
新土藏	—	172	(25)

永守稻荷社・雨屋	—	174	(25)
奥書院・山主ノ居間	—	35	(26)
大書院	—	36	(27)
小書院	—	37	(27)
講究所・玄関式台	—	38	(27)
生徒寮・廊下	—	38	(28)
飯厨司	—	39	(28)
受附所・内玄関式台	—	39	(28)
物置長屋	—	39	(28)
普請会所等	—	40	(28)
法喜堂(厨司・庫裏)	—	53	(28)
大客殿	—	56	(28)

△從上之山通至奥之院之部▽

祈禱堂・番寮・廊下	—	55	(25)
願主堂	—	58	(26)
鐘樓堂	—	59	(27)
影現七面大明神・幣殿・拝殿・鳥居	—	60	(27)
番神社(八幡宮)・拝殿	—	61	(27)
五重(宝)塔	—	62	(27)
刹堂(十如房)	—	64	(28)

児文殊宮・児水	一	65	126	(29)
宝塔	一	66		(29)
延師ノ廟堂	一	67		(29)
一切経藏	一	67		(30)
経蔵側廟塔 <small>(四性院)</small>	一	68		(30)
丈六釈迦堂 <small>(八条宮)</small>	一	69		(30)
相輪塔	一	70		(31)
大黒堂	一	70		(31)
三光堂・拝殿・番僧寮・大光坊	一	71	124	138 (31)
金仏釈尊像	一	72		(32)
常題目堂 <small>(堂唱堂・法久庵)</small> ・衆寮	一	73	132	(32)
東照大権現宮・雨屋	一	73	128	(32)
妙見大菩薩ノ宮 <small>(中井谷)</small>	一	74	191	(32)
水屋庵 <small>(絶水庵)</small>	一	74	133	(33)
奥院祖師堂・拝殿	一	75	80	121 (33)
二王門 <small>(二天門)</small>	一	77	121	(35)
椎鐘堂	一	78	121	(35)
别当寮 <small>(孝東院)</small>	一	78	80	121 (35)
籠屋	一	79		(35)
御供所	一	79		
井水	一	137		

身延山諸堂記外 (北沢)

△西谷通七面山詣▽				
朝師堂 <small>(東林房)</small>	一	80	190	(45)
西谷檀林善学院諸堂	一	80		(44)
常経堂・衆寮・食堂	一	84		(37)
廟番僧寮 <small>(妙福庵)</small>	一	84		(37)
収骨堂	一	84		(37)
犬ノ塔	一	85		(37)
釈迦堂	一	85	136	(36)
祖師廟堂・拝殿	一	86	181	(36)
阿仏房日得聖人ノ塔	一	89		(37)
御草庵旧跡	三	68		
田代祖師堂・庵 <small>(妙石庵)</small>	一	90	115	116
高屋石ノ寮 <small>(松樹庵)</small>	一	90	115	118 (38)
松之息ノ寮 <small>(松樹庵)</small>	一	91		(38)
追分ノ寮 <small>(感井坊)</small>	一	91	107	(38)
十万部	一	91		(39)
赤妙福寺	一	92		(39)
神力房	一	93		(39)
蓮華房	一	93		(39)
鳥居	一	94		(40)

身延山諸堂記外（北沢）

北神通坊	—	94	(40)		
末知安住房	—	95			
肝心房	—	95			
中ノ茶屋（中適房）	—	95	(40)		
晴雲房	—	96			
赤沢万年橋	—	96			
宗悦房	—	96			
七面山諸堂等	—	96	(40)		
甲州七面山鐘銘并叙	—	101	(41)		
七面山神祠修營疏	—	102	(42)		
七面山神祠記	—	103	(43)		
池大神宮	—	105	(44)		
影向石ノ社	—	106	(44)		
波木井日円之古地・廟所	—	106	(45)		
帝釈堂（西行房）	—	183			
辰師堂（東谷妙仙房）	—	187			
興師堂（醍醐谷林蔵房）	—	189			
尊賀堂（西谷常住房）	—	193			
二十三夜堂（片原谷山本房）	—	194			
松尾大明神社（西谷法蓮房）	—	195			
壽量院社（別当円白坊）	—	197			
地神宮（南谷常樂房）	—	199			
清正堂（遷泉坊）	—	200			
清兮寺	—	63			
宝物館	—	69			入紙
小檀林教場	—	76			
祖山学院	—	76			

(1オ)

嘉永七甲寅年二月写之「明治八年焼失」(撰紙、朱字)

第一之巻

身延山諸堂塔建立記録

一久遠寺西谷塔頭ヨリ今ノ地ニ移スハ文明六年甲午
藏師入山已後十五年開闢ヨリ二百一年ナリ



(1ウ)

安永五丙申十月十一日ノ夜回祿七面山堂宇不残(隨身門ノコル)

延享四丁卯七月七日朝師堂并十一ヶ坊下之房ヨリ出

火」

文政四辛巳八月九日夜九ツ時八角堂焼失願堂共一拜殿共一

文政七甲申八月廿七日申ノ下刻三堂并諸堂十三棟焼

失供所ノコル

文政十二己丑九月六日戌中刻方丈向不残焼失五重塔焼失

慶応元乙丑十二月十四日ヒル四ツ時仙台坊ヨリ出火三

身延山諸堂記外(北沢)

(2オ)

門類焼寺中十七ヶ坊小堂」八ヶ所町百六軒類焼失」
明治八乙亥一月十日午後六時西谷本種坊ヨリ出火諸
堂向方丈向不残」延焼祈禱堂脱師堂影現社夏鐘堂五
重塔庭師廟堂寺中拾二ヶ坊」町三軒焼失但シ本地橋門
并裏門番所
裏門ノコル時ノ鐘堂焼失」
西東新三堂蔵ノコル

身延山諸堂塔建立記録

三十三世日亨師ノ筆又加筆ノ写レ之

一惣門三間半二間半 (撰紙ニ現文第五乙巳年九月吉日
日食判形 与子孫繁榮家門安全也)

第廿八世奠師代三浦志摩守明敬ノ母

寿応院妙相日覚大姉寛文二壬寅八月四日卒 依レ之毎月四日於三

宝蔵「自我偈誦レ之」

石灯笼一基 為三寿応院妙相日覚大姉并」

施主仙寿院妙良日長三浦老成守姉
本多弥兵衛ノ母

石灯笼一基 為三寿応院妙相日覚大姉并」

施主長徳院松岩妙寿寛文九己酉十二月日」

開会関ノ額者三十六代潮師ノ筆裏書ニ
寛心院 奉行 源春房

撰紙一枚 飯沼村 刑沢村 本郷村
繪米五俵 古屋市之丞 甲拾兩 市川太右衛門 二俵 渡部五右衛門

同米 有野村 何某 額文字共 下町 登師 平兵衛
十俵 取次 市川太右衛門 一式細工 池上舟下」

(2ウ)

身延山諸堂記外（北沢）

孫兵衛 下大工 十右衛門 銀治ヤ 狐町 勘右衛門 時元文三改年四月廿八日
佐五右衛門 以上 裏番

〔註〕

(1) 二ノ二百一ノ押紙・朱字

〔逢島ノ祖師堂三間者尺四方〕

相伝フ宗祖於此処初逢ニ大旦那波木井殿寄進精舎地」
故ニ号逢島云云

第廿六世暹師ノ代建立 棟札ニ慶安三庚寅八月吉日

「知見院日暹上人也本願新屋六右衛門」 法号 常友
村井久左衛門 法名 日相 屋敷寄進主」 船原村与兵衛

法名長清 勘平村縫右衛門法名立理」 仏壇ノ施主岡村忠
左衛門 法号 法仙 大工池上左門」 天蓋ノ本願主村
井久左衛門了性日相慶安五酉」 五月十三日

祖師ノ像 本在二奥院ニ 後ニ移此堂ニ 書付ニ破壊ノ尊像奉ニ再興ニ
之ニ意趣者祈下于学問不退而契ニ当仏意正智」 息災

延命ト矣寛永十三年 丙子二月日願主鷲峰院」 日詳判
形

所化名唯遺於二飯高ニ修学後ニ中村化主京都妙顯寺」 台座 井宮殿
池上日尊ト改院号改二他那院

(3ウ)

之扉日遠形 慶長十三 戊申年初秋人日」 修畢ス造管
施主 甲州河内志左衛門」
飯富ノ住

發軔ノ額者日亨代 本戸中納言綱条卿ノ筆」

逢島祖師像 新刻 明和七庚寅仲夏暹師代」 同御厨子三ツ具
御贖具 施主大坂本間野兵衛

足 施主大阪河内屋野兵衛 3」
明和八辛卯仲夏暹師代

〔註〕

(1) 或作会ノ頭註

(2) 下ノ百卅四ノ押紙・朱字

(3) 此ノツムキ下ニアリノ頭註

一 太平橋 中二間 四十五世暹師代明和七庚寅十二月成就」 環初ニ付
長拾貳間 師ヨリ本尊被下今般太平橋渡初依之帶刀免許行年
九十三歳翁小倉縫左衛門」 法号初初渡翁」 当所ノ住人也

五十三世奏師代再建文化三丙寅年十月」
文化十三丙子年秋八月大風ニテ破損依レ之五十四世審師代
同年ノ冬成就

掛替」
文政十一戊子年 大水ニテ流レ之依テ五十八世環師代掛レ
六月三十日

六十九世環師代文久三癸亥年掛替企之七十世禪師代元治」 乙丑五月十七日
水盛風強リ同年飯鶴」 掛之世話方丹藏望月尊左衛門」
太平橋永代為修復料金百両寄附主福土村戸沢恒藏 世話人池上重兵衛」
月尊左衛門環師代文久二戊年五月納之

健師代三枚ッギ本尊明治六西二月遷之(2)

〔註〕

(1) 下ノ百四十一(押紙・朱字)

(2) 此ツドキ下ニアリ(頭註・朱字)

一稻荷大明神二間并拜殿在風可四間二間半

社并拜殿元禄十三庚戌年十二月朔日 日省形

再興発願主学禅院日逢 社并宮殿再興」実道房日

修正徳元 辛卯年五月成就就其ノ年」八月廿三日ノ大

風ニ皆破損ス」

神像ノ座并宮殿正徳二壬辰年再建」

別当ノ房四間ニ六間 元禄十四 辛巳年成就日省師ヨリ」

学禅院日逢江授与之本尊有レ之」

門石稻荷社 吾祖当山開闢之初社前之一石ニ彫影現シ高祖ヲ一尊
敬シ奉ル我夫妻若迎里之領守是ナリ 文殊精舎一安設六
己未七月立之文殊厨廂門院日行代」

①(2) 三門十三間 廊門左右各五間二間半宛」
五間半

第廿六世退師代新建立元禄十九壬午 建立成就供養」本

願者甲府松木氏ノ母受源院妙徳日行正保二乙酉年」八

依レ之毎月十日於ニ宝蔵ニ自我偈誦レ之諸国」勸化

有レ之奉加保」
土蔵有レ之

身延山諸堂記外(北沢)

(4オ)

(4ウ)

(5オ)

(5ウ)

三門ノ位牌 受源院妙徳日行大姉 三門大願主」

大久保彦兵衛息女法名受源院妙徳日行進修」正保二

乙酉八月十日寂ス 寛永十九壬午六月十二日」当

門建立成就供養

密迹金剛神ハ從中門ニ遷座于所之時跡之」第廿六嗣法知見院日

遷形

位牌朝野遠近緇素貴賤士女」

位牌当三門建立日退聖人日奠立之」

棟札同位牌裏書ニ脇書御助成第廿二世心性」院日

遠上人 日遷形 大工池上新之丞宗高」
同子息藏藏宗高

奉加帳金子二百兩日遠上人 日遷形」

初ハ瓦葺也屋根重ク又寒氣破壊故第二十七世」境

師代改テ為ニ檜皮ノ慶安二己丑六月良日 奉行」唯

識房蓮成房 施主当町国駿府勸化」

宝曆三癸酉年九月十九日以ニ銅枚ニ葺更企之輪師御代」

二王ノ像者相州六浦荒尾攝津守平次郎入道妙」法禅

門從相州ニ自ラ荷担シ来ル長七尺六寸依レ之」沙

弥妙法禅門ノ像安ニ置之坐像長ケ一尺六分大仏師」
増

貞和四九月四日 此書付像ニ有之妙法禅門者人王九十九

代」後光嚴院御宇文和二癸巳年至正徳二壬辰年三百六十年ナ

身延山諸堂記外（北沢）

リ貞和四戊子年ハ至正徳二壬辰年ナリ三百六十五年ナリ妙法ノ像

ハ存日ニ造レ之

閣ノ上釈尊ハ日遠師開光

祖師者延至七末十二月廿八日脱判形 施主恵心院日法

十六羅漢

一窟度羅跋囉惰闇尊者住西州身自復風(5)

施主受源院妙徳日行

二託迦蹉尊者住迦蹉亦羅田(5)

為三父了底菩提 施主松本七左衛門(6)

三迦諾迦跋藍墮闇尊者住東州(6)

為三母妙空菩提 施主松本七左衛門(6)

四蘇頻陀尊者住北州(6)

為了心院妙忍施主松本七左衛門(6)

五諾矩羅尊者住南州(6)

施主穗坂弥右衛門法長松院法寿日増(6)

信女考長栢院妙寿日悦(6)

六跋陀羅尊者住北投羅州(6)

施主龜崎又兵衛(6)

(6ウ)

七迦理迦尊者住前加茶州(7)

施主為三喜多村彦右衛門信昆二世(7)

八伐闍羅弗多羅尊者住鉢厨奴千州(7)

為三妙泉日涌 施主須田市十郎妻妙了(7)

九伐博迦尊者住香羅山中(7)

施主出口彦兵衛法道祐同婆名妙寿(7)

十半託迦尊者住三百羅漢(7)

施主松田昌悦(7)

十一囉怛羅尊者多分在牟利羅州(7)

為三夫余跋妙聚逆修(7)

十二那伽犀那尊者住半成波山(7)

施主小河内太郎左衛門(7)

十三因揭陀尊者住北山(7)

施主小沢久左衛門(7)

十四伐那婆斯尊者住可住山(7)

施主佐野兵左衛門法道喜(7)

十五阿伐多尊者住鉢羅山(7)

施主山田庄兵衛(7)

十六注茶半託迦尊者住持輪山(7)

(6オ)

(7ウ)

施主 望月路左衛門法号淨琳
延山崎中九人

天蓋本願主村井久左衛門了性日相慶安五西五月十三日

石灯笼二基願主勢州桑名城主 從五位下松平撰津守源定良」為二

除災延命武運長久子孫繁昌」明應二丙申舊月吉成

石灯笼二基本願是真日誦寛文八辛未十月十三日

金灯笼二基施主武江芝河内屋簀右衛門 五十四世塞師代新二

石ノ水鉢」永代油料金三十兩寄付之

三門大屋根檜皮葺更」

同下屋根銅瓦葺更」

同廊門檜皮葺更」

二王尊ノ花天井」

同御供所新建立」

別当ノ房再建立」

身延山ノ額ハ三十六世日潮師ノ筆ナリ」

〔註〕

(1) 二ノ五十ハ抑紙・朱字

(2) 慶応元乙丑十二月十四日巳ノ中刻仙台坊ヨリ出火
之節類焼失ナリハ頭註

(3) 宝曆三癸酉年古仏堂祖師江戸開帳勤之淨心寺ヨリ
銀五十枚銅瓦江施入ハ頭註

(4) 妙法禪門文和二年ハ五世台師ノ頃 別統ニハ十三

身延山諸堂記外(北沢)

(8ウ)

世伝師ノ時トアリ不詳ハ頭註・朱字

(5) 返り点未記入。

(6) 宮内庁書陵部本には「松本」とある。

(7) 返り点未記入。

一三門前常唱堂并頭寮香積厨子結果ノ寮」

第三十三世日亨代新造立 奉行僧親證房日誦 宗僧日敬大工

棟梁池上藤兵衛宗道 施主本願武州住人 三河屋吉左衛門

積尊三河屋吉左衛門親父所持ノ尊像奉納之

立像宗旨建立祖師像打空如雲法師嚴於開屋日現取次

頭寮文政十一戊子年 大ニテ流失

常唱堂ノ額ハ五十八世日環師ノ筆ナリ」

(9オ)

一三門前ノ常作事長屋 第三十三世日亨代新造立」奉行

僧親證房日誦 宗僧日敬大工池上藤兵衛宗道」

前ハ於三門ニ營作ス見分不耳三門損ル故正徳元辛卯年冬新ニ

一重栄梅天神宮三尺八寸 銅瓦葺 同雨屋二間半 家根銅瓦葺

宝曆四甲戌二月廿五日四十世輪師代新造立

一聖徳太子堂九尺四方 銅瓦家根 文政三年附師本尊江戸勅化ノ際 全繪圖

身延山諸堂記外(北沢)

身延山諸堂記外（北沢）

文政年間 大工中建立之
慶応元年十二月十四日辰四ツ時仙台坊ヨリ出火焼失
明治四十五年 月 日再建（一）

〔註〕
（一） 月日を欠く。

一浴室七間八間

第廿六世遍師代棟札正保三丙戌十月廿七日 大工

地上新之蓋宗匠
岡 殿 藤宗尚 前々会所并三門等皆依此指搦者
後代 諸如是 奉行延智院目録
山本房目録

祠堂金式拾兩為悲寿光院殿昌栄日慈大姉

金式拾兩為姉了智院殿妙堯日清菩提

施主京極丹後守高国

浴室ノ額者

一石壇（一）三百八十七段 （二）休息所六ヶ所

廿九世筵師三十世通師兩代ニ成就

奠師銅瓦勸化殘金五拾兩用レ之余ハ通師代ニ足レ
之成就ス

宝永四年丁亥
十月四日ノ大地震ニ大ニ破損ス日亨代「悉補復之」
其後二天門再興之節石段五段増シ之寶永五年新師代

（10ウ）

一 道灯笼

（一）二天門六間ニ間半棟札無レ之

往古ノ二天門ハ六浦平次郎入道妙法禪門建ニ立

之（二）播磨守也 （三）相州荒尾城主 鎌倉六浦吉行寺モ此建立ナリ從相州中山江日

此門改造ノ時奥ノ院江移レ之

今ノ門ハ松平隱岐守「定長ノ母堂養仙院了栄妙護

日立大姉（一）天和三（癸亥）十建立也

上ノ山ノ宝塔并時ノ鐘モ此ノ大姉ノ一建立也

二天像

石灯笼二（一）其説文十段戊
（二）月日 施主甲州小河原村内藤氏（一）法忍

道栄日行地盤ニ破損再營施主内藤金石衛門

石壇重修復施主東京下谷母住町藤井啓助同妻今女
金百七十兩也明治十八年九月初ノ同二十年亥十二月成就ス
鉄ノクサリ遠州寺院僧徒

〔註〕

- （一） 二ノ五十四（押紙・朱字）
- （二） 文政七年焼失（押紙・朱字）
- （三） 三十一世脱師代再建立（頭註）

(11オ)

①② 一本堂（注）古ノ本盛者豆州伊賀ノ大行寺法法之十一間四方也

第十八世日賢師代建立也未レ 滿遷化第十九世日道師代ニ成就ス日道師ノ棟札ニ云

慶長四己亥年八月廿五日本堂者第十八世日賢聖

人慶長四年己亥三月十三日遷化 施主者関白殿ノ母瑞竜院日秀ナリ

三年ニノ而終ル賢師上未レ 滿遷化日道三月五

日入院上葺成就抄 大工棟梁池上新之丞宗重当町

大工已上十二人下山ノ大工三人奉行妙行房日修棟札

本堂ノ施主瑞竜院者大関秀吉公ノ姉建性院前三

位法印一路カウチ 露斉日海ノ妻慶長十七年 関白秀次公

井岐阜宰相秀勝卿ノ母堂ナリ寛永乙丑四月廿四日

当山ノ本堂并諸尊今ハ在リ會舍所

大方丈皆ナ瑞竜院日秀ノ建立也

洛東善正寺談林一式建立也

上京村雲ノ瑞竜院又号其ノ旧跡也

中尊両仏四菩薩四天王ノ施主ハ松林院殿榮寿日

仙大姉寛永三丙寅十月十二日七十五歳卒 為ニ離苦得楽并仏法 広布

寛永第九竜集壬申 中夏如意日心性院日遠形

身延山諸堂記外（北沢）

(12オ)

中尊ノ内妙経一部為ニ 願了庵宗淵廿三回忌 日遷判形

文殊普賢ノ二像万治三年庚子 日奠判形施主 桑名城去後平坂法号 光徳院門妙

日法寺

久遠寺ノ額者近衛三藐院殿筆也 今ハ二門門止移ス 法

名三藐院同徹大初慶長十九甲寅年

後門釈迦文殊普賢ノ絵狩野平人佐筆

宝蓋天地長久 国土安全 四海泰平 万民快樂 施主原氏留宮（4）

氏

天蓋

三具足日字代為武運長久施主防州岩田城主 吉川勝之助広達

久成殿ノ額者四十五世日応師ノ筆安永二癸巳成

諸堂并 向拝惣修復彩色塗地惣施主松州御殿僧院殿

狭谷御殿尊修院殿 安永二癸巳成九月 四十五世日応判形板札有之

畑蕨君女中各々御祈禱

〔註〕

（1） 二ノ卅一 三ノ四十三 二ノ九十七（押紙・朱字）

（2） 文政七年焼失（押紙・朱字）

（3） 七月五日入山ノ上（脚註）

（4） 借殿部本は「雷官氏」と。

身延山諸堂記外（北沢）

〔1〕(2)(3) 一祖師堂拾七間四方ニ棟各二間宛

第十三世日伝師建立初成云日憲日伝兩代建立ト

第二十四世日要師代元和七年西同八壬戌 丙午諸國

勸化華_レ楯懸_三破風_一以_三檜皮_一葺_レ之元和八年壬戌棟

札有之 造營奉行ノ僧 要行院日統 惠性房日彦 隆之房日受 林

藏房日順 法雲房日隆 唯運房日達 延壽房日清 長成房日宗 玉之房

成房日得 法雲房日隆 南延房日達 榮範日解 久成房日滿 東之房

日殿 松井房日通 大工棟梁池上新之丞宗信 物大工 賀右衛門 太

日芳 玄澄日生 脇 棟梁池上丹後守宗次 宿太良島田戸右衛門

兵衛 武右衛門 義兵衛 李之助 勘右衛門 町人足奉行池上与兵衛

良右門 宇兵衛 兵一作 又次郎 久五郎 町人足奉行池上与兵衛

願三郎 亦藏 新三郎 木引頭 勘右衛門 六千代

新治郎 勘十郎 長五郎 又 市

第廿八世日奠代欲_レ改_三銅瓦_一雖_レ有_三諸國勸化_一

有_レ故不_レ成_三其集金_一処々修營殘金五十兩ハ

後代石檀料ノ内ニ用_レ之寛文三癸卯年正月奉加帳ノ序ニ又分限

一瓦七分五厘ノト瓦 又既ニ所_レ作銅瓦者日脱代祈禱

一坪分ヲ金五兩一分宛 長文故略_レ之云云 瓦

堂建立ノ時用_レ之葺_レ之其ノ余瓦或_レ潰_ニ水鉢等_一

又日亨代藏經堂建立ノ時用_レ之其殘瓦不足ハ於_三大坂_一求_レ之

本_レ地塔ノ銅瓦ハ全ク於_三大坂_一新_二作_レ之

(14ウ)

宮殿在古ノ宮殿ハ第十三世日伝師代 施主西之房日祐 大德房日守

(14オ)

宮殿内ノ御脇息ハ祖師御存日波木井殿寄進

宮殿内ノ金天蓋寛永十八辛巳三月 施主 養珠院」妙

紹日心」

開帳時供養金小香炉日辛代 施主 玄理院日義」 願了院日盛」

戸張 水戸前黃門光圀卿」

御袈裟衣 井衣服」

御小袖 帶 蓋頭 紀伊君御殿中瑞林院天眞院宝徳院」 毎年奉上下 其後

水戸君御殿中季君奉上 御袷 器頭 本多」 信濃守養母運経院奉上 御袷

季君ヨリモ奉上 夏衣者洛陽」 布袋屋奉上」

三具足 井前机」

(13ウ)

大工ハ池上縫殿允正重宮殿ニ此ノ母付有之此宮殿ハ高座石 此ノ母付有之此宮殿ハ高座石

新宮殿ハ第三十三世日亨代宝永五戊子年九月」於_三京都_一作_レ之

作者大仏師山田式部金千五百兩余 成就之」 施主本

願分ハ宮殿内ニ立_三共牌_一物施主ハ委細別帳

記_レ之」

祖師御持経者神力品第十五世日叙師ノ筆ナリ」 奥

書ニ自余ノ檀越一結為_レ無今後兩際所願成就」 寄_三

進之永祿第九丙寅年十月十三日日叙 判形 至_三正

徳二壬辰二百四十七年表紙ニ寛永十九壬午十月十三

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

日」修_三補之_一日遇 判形 堯淑日教修_三營_一之_二

金柱ニ元龜三壬申十月十三日 日叙判形 一至正徳三壬辰
年^二 勸進沙門一乘房日增^一

永代報恩擗十三日擗本願人掛札位牌^{日字代}

同位牌壇三具足四通^{日字代}

半鐘^一

菊紋天井 延享元年甲子正月始之九月迄畢 第三十六世日潮代 施主江戶京御
大津氏新兵衛 妻美嗣成正院日福聖人^一

祖堂卷經卅部机蓋共 安永七戊戌六月 取次世話人
施主教養石村河西藏人 蓮信坊智成院日壽^一

同開帳場半鐘 施主教養石河西氏 安永二癸巳九月納之 右同人^一

〔註〕

(1) 二ノ二三ノ二ノ押紙・朱字

(2) 文政七年焼失ノ押紙・朱字

(3) 金百兩 永代常経料妙伝寺塔中 妙积院日悟十一日命日 毎日四巻読誦施主

〔頭註〕

一位牌堂^一 十三間半^二 二十一間四方^三 椽各七尺^四 宛^一

往古ノ位牌堂ハ三島本覚寺江送之禮然河端ニテ大水ニ流失ス^一

第廿七世日境師代建立慶安四辛卯年ナリ 棟札無^レ之故

ニ奠師寛文六丙午年八月日ノ棟札有^レ之^一

身延山諸堂記外(北沢)

(15ウ)

釈尊丈六坐像者^一 甲州住人受心房日用自刻^レ之^二 安置ス為^三
此^レ法味^一 從天和二壬戌年 回國三百万部^二 勸三行之^三 奉^レ
収^レ之^一 生國丹州宗久^二 此札蓋前長押ノ上ニ有^レ之^一

三具足 井前机^一

日月牌過去帳 毎冊施主書有^レ之^一

〔註〕

(1) 二ノ四十四 三ノ卅二 二ノ九十七ノ押紙・朱字

(2) 文政七年焼失ノ押紙・朱字

一本地塔^一 卷丈四方外四方^二 椽^三

三十三世日亨代宝永七庚寅年新建立^一 為^レ令^二 諸人^三
知^レ蓮祖本地上行菩薩^一 故建^二 立^三 之^一 余宗有^二 此^三
例^一

上行菩薩ノ像者本阿弥空中齐光甫法眼^一 存日奉^レ
造^二 立^三 之^一 没後ニ 歟沢閑居ノ日現一家相ヒ議ソ当山^一
ニ奉^レ収^レ之^一 座光宮殿ハ安置ノ後造之^一 日現上人^二 西四月
十二日^一

塔者武江ノ住人植木助三郎^一 法常有院宗閑日合^一 宝永
四丁亥年 奉行僧宗信^二 日叙^三 大工棟梁池上^一 藤兵衛宗道
月九日卒

四丁亥年 奉行僧宗信^二 日叙^三 大工棟梁池上^一 藤兵衛宗道
月九日卒

(16オ)

喜拾金子三百兩、没後立之、依之每月於三寶藏、自我偈誦之、銅瓦ハ助三郎、養子助五郎、法常味院宗軒日意施主ナリ、三具足并前机日年代

[註]

(一) 二ノ九十ハ押紙・朱字

一二重宝塔三四四方

第十一世日朝師代

安置ノ大漫茶羅者日命授与ノ本尊写レ之以三、真

鍮彫刻之、其裏書ニ云ク

甲州巨摩郡飯三牧、波木井郷身延山久遠寺塔中御

本尊柱立ハ文明六甲午八月十日御本尊入塔ハ同

十戌戌、三月十六日御本尊願并塔勸進沙門行仙

房日用証明房日徳同佐野弥次郎朝義、御本尊ノ工

巧弥太郎朝宗、日朝判形、朱添ニテ書之、從文明六甲

午年至正徳二壬辰年二百四十年ナリ、中尊兩仏

塔内天井ノ竜等四方ノ緑色絵ハ相伝フ古法眼ノ

筆云云、享私云古法眼ハ文明九丁酉年ニ生レ永

祿二己未年、十月六日八十三歳ニノ死号ニ越前守

(17オ)

古法眼元信、從此塔建立ニ經年、後ニ生ル若シ爾ラハ緑色者建立、已後遙ニ後ニ加レ之歟、往古者古法眼ノ筆釈迦、文殊普賢有レ之後取レ之為三福对、金五拾枚ノ札有レ之

桑名寿量寺ノ檀那中古修補ノ書付上ノ重ニ有レ之、朝師ノ作勸化帳之写朝師ノ真筆在身延山土藏

勸進ノ沙門日徳敬白朝師殊靈、清信士女秀恩、身延山中、建立、宇宝塔、成就、二世大刹

山者末法有縁之導師日蓮上人ノ章創也爰、元祖上

人為地涌之上首、忝伝、要法於月氏、更、非迹化

所レ及、也為弘經之法將、親撮、枢柄、日域、全非

余聖之所レ能、也是以小権之四依暫離、息、化、上行

之慈雲遍、霽、潤、仏種、於心田、迹化之大小、亦雖

掃、板、本時之慧日重照、転、法輪、於昏、衢、矣、自爾以

降、順者知、正法之貴、早、蹈、成、仏、之路、逆者、断、邪

教之賤、弥、沈、苦海之底、情、以、有、信、謗之別者、只

是由、先業之所感、静、願、利、順、逆之縁、偏是在、本

化之勝利、歟、方、今、以、荷、負、大法、則知、法中之竜

象、也、若、非、此、師、者、誰、謂、上、行、之、降、誕、乎、然、元祖

既、為、本、化、之、正、棟、開、花、界、於、身、延、山、設、雖、為、

(17ウ)

迹「化」之聖跡「猶」以「不」可「レ」比「レ」之「況」小「檀」之「地」乎「良」
 以「枳」棘「非」鳳「鸞」之「所」也「矣」今「以」上「聖」之「開」關「二」遍
 知「レ」為「三」靈「地」一「者」也「殊」其「地」形「亦」無「レ」比「乎」然「則」山「堆」
 鷲「峯」山「之」粧「在」目「前」水「潔」玉「泉」之「流」浮「二」慧「月」也
 誠「希」代「之」勝「地」無「雙」之「靈」場「也」故「緇」素「運」步「尊」卑「歸」
 命「但」於「三」此「寺」院「之」中「未」見「三」寶「塔」一「寺」僧「歎」涉「レ」日
 愁「而」送「レ」年「凡」寶「塔」一「者」在「三」經「中」一「懃」三「經」之「饒」美「顯」
 三「說」之「超」過「二」円「經」之「希」奇「豈」如「レ」之「乎」況「塔」中「付」屬「之」
 玄「旨」獨「一」在「二」地「涌」若「拜」三「此」寶「塔」亦「可」レ「知」三「宗」元「之」
 貴「一」者「歎」不「レ」可「レ」不「レ」修「不」可「レ」不「レ」勸「比」丘「日」德「受」三「方」
 袍「円」頂「之」形「適」雖「レ」列「三」釈「子」之「數」智「目」行「足」闕「無」何
 以「一」到「三」清「涼」池「乎」兼「思」三「將」來「之」苦「域」一「愁」淚「余」レ「袂」
 悲「色」銘「レ」肝「今」不「レ」耐「三」懇「歎」一「相」語「善」友「一」勸「三」進「信」者「
 新」起「三」立「一」字「之」寶「塔」一「將」遂「三」世「之」大「願」一「者」也「凡」
 厥「泰」山「不」讓「三」土「壤」故「成」三「其」高「一」河「海」不「レ」厭「細」流「
 故」能「成」三「其」深「一」矣「一」誰「分」三「消」塵「之」資「不」期「三」海「岳」之
 果「乎」鹿「幾」一「貴」賤「莫」レ「論」三「多」少「一」力「之」所「レ」任「雖」一「位」一
 錢「不」レ「可」レ「輕」レ「之」志「之」所「レ」分「雖」三「寸」鉄「尺」木「二」所「レ」不
 嫌「レ」之「也」一「只」以「レ」志「為」レ「足」集「三」輕「錢」於「同」心「一」招「三」厚「福」

身延山諸堂記外(北沢)

於「レ」合「力」者「也」今「記」事「由」二「所」レ「唱」如「レ」右「敬」白「
 文」明「第」二「年」十「一」月「日」勸「進」日「德」敬「曰」一
 三「具」足「一」

一「灯」主「堂」三「間」半「三」間「方」灯「室」三「間」十二「間」一

兩「堂」ノ「額」ハ「玄」理「院」日「儀」ノ「筆」(正徳三癸巳九月廿一日化)

第「卅」二「世」日「省」代「諸」國「勸」化「會」式「十」一「十」二「十」三「日」万「
 灯」供「養」始「レ」之「施」主「ノ」名「灯」主「堂」ニ「記」レ「之」万「灯」室「一」本

有「三」字「二」鼓「樓」堂「ノ」南「一」字「宝」永「四」丁「亥」十「月」四「日」大
 地「震」ニ「破」壊「ス」ル「故」ニ「厭」地「狭」ニ「不」レ「立」レ「之」此「ノ」兩「堂」
 修「復」料「祠」堂「金」有「レ」之

其「後」明「和」九「年」四「十」五「世」一「応」師「代」再「興」惣「葺」更「委」
 別「帳」ニ「有」レ「之」

〔註〕

(1) 二ノ七十(押紙・朱字)

(2) 文政七年焼失(押紙・朱字)

一「鼓」樓「堂」三「間」半「四」方「一」

第「三」十「一」世「脱」師「代」新「建」立「一」

太「鼓」大「筒」者「永」正「年」中「日」意「師」ノ「書」付「有」レ「之」一

身延山諸堂記外（北沢）

(20才)

鼓樓者為三緣了院宗円日倚延至七百零九年三月十八日教誓「十月十日妙常承庇三甲午」也元禄五壬申年十月「八日 日脱判形 施主ハ武江神田ノ住信女栄寿」現安 奉行松井坊日遙大工棟梁坂上宮内
太鼓張更宝曆六子ノ妙師代
釈迦尊者 発心者清閑日殊奉宝永七年庚寅二月三十日死安置之

〔註〕

- (1) 二ノ七十八へ押紙・朱字
- (2) 文政七年焼失へ押紙・朱字

〔1〕 円師堂三間四方道縁三尺

像作并開眼不レ知書付無レ之長一尺五寸

波木井影堂ノ額者水戸宰相家繪御筆

四十世輪師代宝曆四甲戌年雖三発起不レ成化現依レ

之施主」得レ談合成就 金百兩武江役所住人坂倉清兵衛

衛」松屋四郎兵衛寄附 金三十五兩輪師御寄附」

奉行僧示教院日喜」

円師影像者從古來御宝蔵ニ有レ之宝曆七年丁丑遷座四月廿五日「
宮殿前机磐台等ハ大工池上新之丞作之」棟梁坂上

宮内宗高」

〔註〕

- (1) 二ノ六十三へ押紙・朱字

〔1〕 椎鐘堂三間四方番部屋九尺二間

大鐘者第廿二世遠師代企之第廿五世深師」代鑄之遠師代ノ奉加假土蔵ニ有レ之

銘者第廿一世乾師ノ作」

身延山久遠寺」

娑婆世界一須弥内南閻浮提大日本国甲州」波木井

郷身延山久遠寺者吾法華宗元祖」開闢勝地九年安

棲靈輻也誠是法水流布」濫觴宗門興建本基也普天

之支流流於此」卒土之緇田生於此矣當于始

日遠住持之時」有西谷山城禪門道順者適詣

当降」見三鍵祖微少忽発弘願言乞巡檢」諸

邦一遍獎賤新鎔巨鏽以充法」器矣貫主

大衆尤悦諾焉從是已來踰三城々岨峻渡漫々巨

海二敵三官舍衡門一イ庶民」柴扉不折寸鉄二求

良助不讓三片壤乞芳」緑積勞多歲也存命之間

未遂所願其躬已逝用之贈善願房日行一矣

(21ウ)

(21才)

爰一東照大権現御息源、黃門頼宣同宰相頼房、兩卿
 母公蓮華院妙紹日心者、經王信力超レ他、當レ時稀有、
 善女也。故從レ初已來、加三志力、然患下于、久有、其名
 未レ得、其、実、至人今時大勵三檀、功、督速治、鑄、矣、依、
 之日深、太得レ便、其、期、方、一、熟、果、以、命、良、治、造、三、巨、鐘、
 一、掛、三、在、持、三、宝、一、尊、前、一、累、年、大、願、今、者、已、滿、足、也、伏、冀、
 妙音周、遍、鉄、田、山、界、一、祖、教、永、伝、樓、至、如、來、一、之、時、一、四
 衆八部同得、常樂、而巳、即作、銘、曰、
 奇哉妙韻、横響、三、大千、一、下、達、三、阿、鼻、一、
 上、至、三、頂、天、一、六、時、普、告、一、覺、三、塵、勞、眠、一、
 集、僧、勸、レ、俗、一、念、誦、安、禪、一、百、八、徹、レ、耳、一、
 情、識、寂、然、一、說、レ、法、聽、レ、法、一、互、開、三、心、蓮、一、
 貴、賤、老、少、一、結、縁、無、辺、一、金、鐘、盛、徳、一、
 幾、千、万、年、一、南、無、妙、法、蓮、華、經、一、
 寛永元年庵集、甲子、八月如意殊日、
 前住 寂照院日乾謹誌、
 奉行沙門 南延房日遠、
 治工棟梁駿州江尻住藤原山田若狭守種秀、
 堂者第三十世通師代建立、寛文十三年、癸丑、十月八
 日、施主甲州吉市場大久保助左衛門、法号、詠秋日春、
 身延山諸堂記外(北沢)

〔註〕
 (1) 二ノ八十四 三ノ廿五(押紙・朱字)
 (2) 鐘鐘勸進 七月十二日
 善願坊日行(願註)
 本願
 ※大鐘銘文等については、「身延教報」第六十九
 卷二号(昭和五十三年二月号)に記事あり。
 (1)(2)
 一舞台三間四方外縁有之、
 初テ建立ノ年代未レ詳、應三朝意伝三代内、
 葺更者第十七世新師ノ代、天正十一、癸未、八月廿六日
 ノ一書付有レ之、奉行蓮住房大工池上新之丞、
 往古ノ舞台歴、年朽故見分不レ宜、六本柱亦不立故ニ日
 字代正徳二壬辰、年再建立奉行僧、宗伯日敬大工棟梁
 池上藤兵衛宗道、施主武江深川ノ住人冬木屋、田中源四
 阿、仁兵衛宗貞、郎、号、寿、命、院、浄、久、日、量、ナ、リ、依、三、施、主、望、一、瓜、ノ、紋、著、
 之金物者諸人志有之、
 〔註〕
 (1) 二ノ七十四(押紙・朱字)
 (2) 文政七年焼失(押紙・朱字)

身延山諸堂記外（北沢）

一 同楽屋并廊下」

宝永四丁亥年 大地震ニ類落スル故ニ日亨代改ニ造之、
十月四日未ノ刻 大地震ニ類落スル故ニ日亨代改ニ造之、
奉行僧親勝房日歸 大工棟梁岡上兵衛宗定 仁兵衛宗定」

一 普請所長小屋』

一 供厨二間半四間半」

往古ハ二天門ノ脇ニ有レ之中古ハ西谷ノ道ノ辺リニ有レ之俗ニ云、
御供屋」

往古ヨリ雖レ有レ之遠所又破損スル故ニ日亨代堂」

前ニ移レ之改建ス

擬ニ高祖御供料「寄ニ附田」地ニ又新建ニ立供厨ニ為
慈父 妙法院法源日正 施主」甲州住人 大木四郎兵衛
悲母 法泉院妙有日善 施主」泉村ノ人 向佐 太夫
慶日録」宝永三丙戌年十月十三日 奉行僧親勝房日歸
大工棟梁岡上兵衛宗定」

〔註〕

（一）二ノ一〇一へ押紙・朱字

一 祖師堂五出仕ノ廊下』

日亨代宝永七庚寅年六月十五十六十七已上三日」

報恩修造講大法会執行之時作レ之但シ常ニハ
登座之」

(24ウ)

(24オ)

(25オ)

文永十一年甲戌年六月十七日当山建立ノ日ナル故
興起ノ」祖書当山ニ有レ之最可レ營ニ報恩日也又諸
国并ニ」國中參詣容易之時節ナル故ニ養レ之、
法事之僧法衣五十通り 同年一様ニ裁レ之施入ノ」
諸人別記ニ有レ之」

堂前起立ノ檐三十流并竜頭正徳元年六月作レ之

舞台并廊下之幔世俗ニ云永引正徳二手辰年於ニ京都ニ

新織レ之大輪宝ノ金紋紅地一様ニ作レ之施主別記

有レ之」

十種供養之具并薪供之具及香炉造花小童」天冠貫

主之天蓋等悉於ニ洛陽ニ新造レ之」

報恩修造講本願并惣施主ノ大帳」

〔註〕

（一）二ノ九十六へ押紙・朱字

一 堂前金灯籠二基」

奉寄進金灯籠身延山久遠寺」

与ニ紀伊大納言頼宣公病患平愈立願成就也」寛文

第六丙午五月吉祥日 願主同北ノ方法瑤林院淨

秀日芳治工武州江戸住宇多川甚右衛門藤原為房」

(154)

(25ウ)

同金灯籠二基

銘云 大願為_レ住大悲油 大捨為_レ火三法聚

善提心灯照_二法界_一 照_三諸衆生_二願_二仏道_一

明曆万年第二竜集_{丙中}十月十二日

為_三兩親兄弟姉妻頓証菩提_一也 願主茶屋_二中島長

右衛門重能入道_法円応院長意日是

治工 野村助右衛門_{宗本}如中

同金灯籠二基

銘文同前 本堂不尽灯明

正保万年第二竜集_{乙酉}十月十二日

施主茶屋中島長右衛門重能_法円応日是

作者 銚子屋源四郎_{宗味}

同金灯籠二基

施主尾州名古屋_{取次}搦中_{油料}金百兩納之_{取次} 惟屋兵衛

堂前蓮葉金水鉢

日亨代施主 隆源房第二世覺樹院日宝_{聖人}宝永三

丙戌年八月三日卒 又千部料金子百兩収之

沙門覺樹院日宝懷_三至誠心_一為_三自他罪滅_一 鉢_三銅

蓮葉盥盤_二安_二置_二堂前_一永施_二參拜_一緇素_一

銘曰 湛_ニ功德水_一 湯_ニ滌心塵_一

法流無_レ竭 惠沢日新

身延山諸堂記外(北沢)

宝永第三_{丙戌}年八月三日 日亨誌ス

鑄匠撰州大坂住人

[註]

(1) 二ノ一〇三 二ノ九十八 二ノ九十四(押紙・朱字)

(1) 通本橋二間廿一間 回廊八尺廿三間

第廿四世要師代建立

額ハ通本_{本阿勢}大藏_{龍光院}撰

通本橋ノ下ヲ号_ス鶯谷_ト

西行ノ歌_{雨シノクミノフノ沢ノカキシバニ} スダチソソムル鶯ノ声

[註]

(1) 二ノ一〇六(押紙・朱字)

(1)(2) 十二時鐘 并堂九尺四方番寮_{表間}三間

第卅一世脱師代新建立

施主予州松山ノ城主松平隱岐守定長

勢州桑名ノ城主松平越中守定重

兩卿母堂養仙院了栄妙護日立大姉

鳴_レ鐘役人資料又寄_三附_一之_{大姉ノ建立ナリ俗ニ云ニ阿伽鉢堂}

身延山諸堂記外(北沢)

(27ウ)

依之每月十六日於三寶藏。自我偈誦之回向ス。天
和三庚年十一月十六日卒」
鐘ノ銘之写」

飯高ノ学徒慈忍日孝代ニ脱師ニ作レ之。後ニ飯高化

主東福輪寺歷代号ニ大中院ト宝永五戊子十月十八

日 日孝聖人」

延山十二辰鐘并叙」

京極氏女落飾号ニ養仙院ト其弟信」牧之女又落飾

号ニ長松院ニ信女篤奉三三」宝無レ不下以三外護三

仏法ニ而為レ任也近況山」中不レ知時乃鑄ニ大鐘ニ

而寄焉又トニ宝」樓于方丈之南某処ニ而鑿焉鳴レ鐘

行者」無ニ衣食資ニ夫人又給焉於レ是乎延山十二辰」

之候備矣昔廬山遠公造ニ蓮華漏一定二十」二時ニ以

為ニ行道之節信女此舉自然契」矣寧只行道之節

而已哉一声梵之鳥知ニ以婦一人知ニ以憩ニ臥

者以起起者以」臥天魔忽伏外道忽納劍輪忽碎」

地獄忽空以至三九界衆生無レ不三各受三」其賜ニ若

以ニ仏眼ニ觀レ之ニ音教是也法身廬」遮那説法是也

唯一鐘声具ニ足無量」功德一如レ是何況十二時時々

鳴レ之永不退」転一者哉不可思議不レ可レ得レ名

(29オ)

遂為ニ之」銘曰」

第一義天 本離ニ代謝ニ

誰問ニ春夏ニ 但有ニ因縁ニ

卯辰己午 及与ニ丑寅ニ

更互推移 惟人之性

鳴ニ此法器ニ 報ニ十二支ニ

莫ニ空過レ時ニ」

三界已非」

亦説ニ昼夜ニ

相統ニ不住ニ

嬾惰且癡」

凡百聽者」

皆延宝八年歲次庚申中秋穀日」

延山蘭若沙門日脱讓」

檀越 養仙院了栄妙護日立」

長松院妙樹日栄」後ニ号ニ春光院ト

治工 田中丹波守藤原重正」

〔註〕

(1) 三ノ廿三ノ押紙・朱字

(2) 文政七年焼失ノ押紙・朱字

(29ウ)

本院之分」

一 中門（念合所前二間二間半）」

一 同長屋（孝文二十四間）」

第廿八世奠師代」

一 大門（東谷二間半）」

往古庫裡之下雖有門久故損壞狹小故」潰之武井

房西、（開）地形、（新）建、（立）之、（二）正徳二（壬辰）年六月成

就 三十三世日亨代」奉行僧（因勝房日歸）大工棟梁（池上）

（藤兵衛宗貞）

往古在二庫裡、前（一）奠師代ニ今之坂口江引レ之」

（字節代）武江住人近江屋妙空 長崎屋八兵衛 伊勢屋」

次郎兵衛 長崎屋平四良 惣門（搦中）取次（山田屋游兵衛）」

同女（搦中）取次鍵屋妙寿」

一 下馬札（惣門）」

廿八世日奠師代初立レ之此時ノ筆者加賀守殿」右

筆也

身延山諸堂記外（北沢）

三十世通師代ニ武江御同朋頭山田清」喜肝煎御右

筆久保吉右衛門筆本紙在、ニ土蔵二損時ハ全如ニ本

紙一写レ之可レ立レ之、

嘉永三（庚戌）八月新師代（三門）共如、本紙一写レ之立替ス」

一 塩沢口

日亨代正徳二（壬辰）年波木井村江頼レ之見分宜場」所

江移レ之築ニ土手一立ニ 御朱印写札令レ知ニ延山

境内一也」

三門前ノ一ヶ所ハ審師代再興」

惣門外ニ一ヶ所」

七分ニ卷ケ所」

〔註〕

一 会合所文関式台」

卅一世脱師代新建立」施主備前少将松平新太郎光

政ノ息女」中川佐渡守久恒ノ内室長寿院妙応日慶

大姉」（宝永三丙戌年五月廿八日卒）不尽日牌亦施入依レ之每

月」廿八日於三宝蔵」自我偈誦レ之回向」

〔註〕

（一） 三ノ卅八ハ押紙・朱字」

(2) 文政十二年焼失（押紙・朱字）

一會合所拾七間半二拾間

第廿六世遍師代寛永十三丙子年勸三化諸国、建立
ス往古ハ今ノ大方丈在此処、為三會合所二甚、狹キ
故北ノ地ニ引レ之、今ノ地ニ大ニ改造ス棟札寛永十
三丙子年極月十九日 日暹判形、本願主三十二世日
遺上人 奉加助力大檀那養珠、院殿 今村伝四郎
正長法了知院日義「大工池上新之丞宗信」
奉加帳之序写」

(32オ)

夫身延山久遠寺者松栢有、心之地本法肇、興之場
也曩祖云仏菩薩栖功德聚之砌、也而今此、処伽藍
宛足唯所闕者集衆、會合之精舎也抑此殿者寺中
院内之衆僧、春秋寒暑二六時中来臨聚集誦經誦
咒、一論談決扱之五種法師所在也、処所之最要、莫
過焉焉法妙ナルカ故ニ人貴シ人貴キカ故ニ処口貴

(32ウ)

トハ蓋、謂レ斯歟然、是処若暫廢、則僧中行事、無
所勤レ之、雖僅有、旧殿、柱根摧朽悉皆、零落不
可、不三修治、不レ可、不ニ敲飾、故今推ニ、再興之志、
此望非、適レ今也、歷代、先師亦所願也、以レ故、

(33オ)

自作亦勸、他自、非、借、衆力、安能、果、其、興造、嗚
呼、不、聞、蚊、聲、成、雷、不、見、狐、腋、作、裘、一、莫、辭、
官、無、三、俸、祿、莫、普、家、甚、貧、窶、唯、是、力、之、所、任、志、之
所、欲、雖、一、錢、一、位、不、可、輕、之、志、之、所、分、離、寸
鉄、尺、木、所、不、亦、嫌、也、經、云、見、他、旧、寺、塔、廟、不、
能、修、治、便、作、是、言、非、我、先、所、造、何、用、治、為
我、寧、更、自、造、立、一、新、者、善、男、子、造、立、新、者、不、如、
修、故、其、福、甚、一、多、又、曰、莫、問、己、許、他、許、隨、其、力
能、一、切、皆、治、其、人、功、德、不、可、思、議、矣、古、今、有、造
高、堂、大、館、一、寧、非、效、乎、有、下、堆、一、黃、金、美、玉、者、只
是、一、浮、雲、也、幸、哉、我、等、適、起、此、殿、永、修、一、白、善、也
世、々、生、々、見、仏、世、尊、在、々、処、々、聽、法、華、一、經、是、大、因
緣、也、是、大、善、根、也、是、故、縑、素、貴、一、賤、同、心、合、力、之、徒、今、世
攘、災、殃、於、旧、里、之、外、一、將、來、得、法、樂、於、二、転、之、果、
如、一、反、掌、今、一、記、三、事、由、二、所、唱、如、レ、件、各、勤、レ、之、勿、
忽、諾、一

諸尊者」

寛永十三歲在、丙子、二月廿日、至、正徳三壬辰、七十七年、
り

古在、本堂、日遺師代改造後、奉、安置、此、一

(33ウ)

中尊」

慶長十乙巳年仲夏後八日 日暹判形
諸尊施主瑞電院日秀尼猷爾公有過罰判再造ノ時味

四菩薩 日暹判形」

施主瑞電院殿日秀比丘尼」

大黒天神 日暹判形」

施主洛陽七条大仏師

形部仰康与作レ之奉レ安ニ置會舍所」

祖師像 願主寂照院日乾大仏師 形部卿」

慶長十七壬子仲夏如意珠日
奉レ安ニ置寶殿」

嘉永六癸丑年六十六世日新師代更表」

向師像 日暹判形

右同時ニ更表 仏師東都電頭」

寛永十五戊寅年七月廿八日
施主富士郡前ノ東漸寺法受院日教」

仏檀天井等一式莊嚴緑色之施主」

東照宮御息紀伊大納言領宜御豫中加藤肥後守清正法号」淨池院日樂ノ
願主瑞林院淨秀日芳大檀正月廿四日卒」毎月二十四日於ニ孟殿ニ自我他
願レ之同向ス」

三ツ具足」

日辛代正徳二壬辰年以古銅片残ニ於申府ニ作レ之」

〔註〕

(1) 二ノ百五十ノ押紙・朱字

一厨子ノ十二間十五間 香積也又ハ云助厨ノ又ハ云庫裏ト或ハ云三
庫裡ト世俗ニ云三台所ト

身延山諸堂記外(北沢)

(34ウ)

第廿二世遠師代建立也」

遠師棟札云奉ニ寄進黄金百両身延山本院」庫裡造

營之助成爲ニ現世安穩後生善効乃」至法界拔苦与

樂ニ慶長万年第十三歲次戊申七月ナリ夷則良辰至正徳三壬辰

年二百五年」施主武州住人加治左馬助丹治家信円惶院日

信敬白」

〔註〕

(1) 二ノ百六十四ノ押紙・朱字

一対面所六間ニ八間次間四間ニ五間」

第廿六世暹師代建立」棟札寛永十五戊寅六月廿四

日 日暹判形 至正徳三壬辰」施主松木受源院妙徳日

行」大工池上新之丞宗信 同源蔵宗尚」

金箔施主 駿州富士郡佐野庄兵衛法号了藏日徳
寛文四甲辰年五月七日卒」

〔註〕

(1) 三ノ卅六ノ押紙・朱字

一小方丈六間四方 又ハ古法眼ノ間ト云フ又ハ云三ノ座トキ

初建立時代不レ知棟札無レ之本院ノ中ニハ第一古

(34オ)

身延山諸堂記外（北沢）

キ」殿也

修治ノ時棟札寛永十四丁丑年七月良日 日暹」判形

上座上葺地形修治之時染筆」上」

古法眼越前守元信筆ノ絵座敷也」

第廿九世延師代恐レ有ニ盜損難レ取レ之」表補為ニ大

小三拾二軸ニ土蔵収レ之」

相伝、床脇白鷺絵能似故謂ニ真鷺」鷹来、囁レ之其

爪跡顯然云云」

初方丈勝手不レ耳今故日亭代開ニ北方」又北、床

縮移ニ西方ニ又举ニ地、床二尺余」襖障子等新造釘

隠改造冀、欲レ令ニ画工」摸ニ古法眼、絵、未果」

水鳴樓額、三十六代潮師筆」

〔註〕

(1) 二ノ百四十三 三ノ卅七（押紙・朱字）

(2) 後ノ水鳴樓ナリ（頭註・朱字）

一 大方丈并唐門十二間ニ十三間浴所九尺ニ三間半」

第十八世賢師代建立」

賢師棟札云岐阜宰相殿於ニ高麗國一他界」御母堂瑞

(35ウ)

(36ウ)

竜院殿建ニ立テ之擬ニ追善ニ客殿也」瑞竜寺殿者殿下

秀吉公、姉関白秀次公、母儀也自二月ニ木取六月十

一日柱立十二月廿八日」令ニ周備畢文祿二癸巳年

十二月吉日至正徳三壬辰年」大工池上新之丞」

岐阜宰相秀勝者法号 光徳院殿前參議清敵」大居士

天正廿年文祿改元 壬辰九月九日於ニ高麗國 逝去」此、実

父者羽柴武藏守一路也号ニ三位法印日海」秀次公

并ニ秀勝公皆一路子也」

此、方丈者岐阜宰相逝去明年文祿二癸巳年」為ニ此、追

善、建立、故毎年九月九日一座、回向」不レ可、退転、

又本堂并此方丈前ノ本堂ノ諸尊」皆瑞竜院日秀尊

儀建立也依レ之毎月廿四日」於ニ宝蔵、自我偈誦レ之

回向」

繪者」

此方丈本在ニ今、会合所、地、日暹師会合所」建立ノ時

北ノ方高キ地江引レ之」

〔註〕

(1) 二ノ百四十六（押紙・朱字）

(37オ)

一藏經堂四間四方ニ外縁各五尺宛」

奉行僧觀靜房日諱 大工棟梁池上宮内宗次 卅三世日亨代
新建立」

施主本願 伏見宮之御息女紀伊大納言光貞卿」御簾

中安宮法天真院妙仁日雅大姉 宝永四丁亥年 二月廿六日逝去」金子三

百兩没後施入有レ之依レ之毎月廿六日於三」宝藏」自

我偈誦レ之回向 其餘入用以三藏」本施入余分 補成

宝永四丁亥年冬東ノ岸ニ建テ立、之 同年十月四日大地震ニ崩損スル故
ニ同」五年戊子年引移、今地再建成就ス」

法華經ノ宝塔者」

施主 松平隠岐守定直之養母又同定直ノ室京極氏高勝ノ女」春光院初、
号三長松院、瓊室妙樹日長法尼」京都大仏師山田式部作之」

大藏經ノ宝殿者」

施主 武江ノ住人相國堂左衛門法号 深信院了門日真」
同妻 重信院妙門日真」

同宝殿天井ノ竜者 狩野永叔筆」

檀ノ後ノ壁ノ繪者」

窟内窟外并饒圓山ノ外結集并撰士弘法伝来明帝ノ夢」感二僧ノ来漢弘法道
師ノ精力道土ノ煥伏願諸師及願什」於三追造園 翻訳僧大士本願輪成ノ
図」

日亨於三洛陽ニ藏經周覽之節考レ之新命三画」工令レ

図レ之在ニ洛東滿願寺」又於三洛都令三画」工三宅揚

心、写之押三于此」天井ノ繪并天人蓮」華等ノ繪

身延山諸堂記外(北沢)

(37ウ)

(39オ)

(38ウ)

亦於三京都令レ書レ之」

三具足并前机」施主 奥州会津ノ城主松平肥後守正容ノ子息松平
後ニ大膳大夫正甫為三寿命長遠武運長久祈
十五郎」

御寄進」

妙經十二部」施主武江三宅平右衛門法号 淨心善敬」

机十二脚」日字新造 此机餓法執行時可レ用レ之」

賈主ノ机」施主下總飯高村高橋市郎左衛門」

唐本一切經」

卅三世日亨代新奉ニ請ス之、日亨宝永元 甲申」年十一

月九日入院時発願当山雖レ有三藏」經ニ在ニ上ノ山、

故不レ便ニ急用ニ又倭藏有三藏本」欲下求三唐本」安中

置本院上宝永三 丙戌 年五月」延山常紫衣勅許為三御

礼」上都参 内之節」於三京都押小路唐本書林」幸

有三新渡好本」欣躍請レ之本藏二百一十一函之外統

藏九十函又統」藏卅八函目錄一函合三百四十函

有レ之飯高檀」林唐本藏經但本藏二百一十一函也黃

壁藏」亦然延山此藏百廿九函多レ之幹線分限五百」

卷已上施主為三本願」立三別位牌」自余施入」悉具

録」簿帳 五百卷ハ金子拾二兩二步 後代賈主」毎日密別施

主現当願満兜願不レ可ニ退転」唐」本絹地 秩各々有レ

身延山諸堂記外（北沢）

(39ウ)

之然易^ニ蝕^ル故正徳二^ニ年^一除^レ之各々桐板黃壁^ニ染^レ之糊加^ニ章^一礎^一以^ニ三^一板^一二枚^一來^レ之以^レ糸結^レ之又虫蠹^ニ時等^レ爲^レ令^レ無^ニ三^一亂雜^一表紙^一記^ニ其^一秩卷^一數次第^一板^一又^一記^ニ函^一名卷數^一此藏經每年虫蠹可^レ爲^ニ鄭^一重^一爲^ニ令^レ法久住^一後代^一貫主^一須^ニ別^一功^一三^一教令^一南西北三方^一中^ニ西^一ノ方^一ハ風雖^レ入^レ故蟲^一易^レ蝕^レ西方^一ノ函^一ノ分^一ハ年中^一西^一三度^一扨^レ之^一ヘキナリ^一又晴天^一ニハ窓^一ノ障子可^レ明^一置^レ之^一爲^レ入^レ風也^一又^一風雨^一之節^一ハ六処^一ノ火灯口窓^一ニ可^レ掛^一三^一雨戸^一其^一雨^一戸者^一爲^ニ急^一掛^レ之^一經堂^一之後^一常置^レ之^一耳^一

〔註〕

(1) 二ノ百卅九^一ハ押紙^一・朱字^一

(2) 二ノ百八十五^一 百卅九^一ハ押紙^一・朱字^一

一唐小鐘^一

開帳^一之節^一鳴^レ之^一廊下^一鈎^レ之^一施主^一茶^一屋^一門^一応院^一長意^一日^一是^一

一宝藏^一三^一間^一半^一四方^一

第廿二世日遠師ノ代慶長年中^一 紀伊大納言頼宣卿 母堂 水戸中納言頼房卿

(40ウ)

養珠院妙紹日心大姉立^レ之^一初号^一蓮華院^一此養珠院 承応二癸巳 年八月二十一日卒

者^一宗再^一與^一大僧^一越^一也^一 甲州大野本遠寺紀州和歌山ノ養珠寺水戸太田ノ

蓮華寺^一皆^レ爲^ニ此^一菩提^一建立也^一於^ニ当^一山^一靈宝^一井^一ニ^一処^一々^一建立^一大有^一三^一勲^一功^一每月廿一日於^ニ宝^一藏^一自我^一偈^一誦^レ之^一回向^一不^レ可^レ退^一転^一二^一八月廿一日別^レ可^レ勤^一之^一

此宝藏中古在^一昔^一拜殿^一中央^一今^一ノ宝藏^一ノ地^一ハ^一皆^一山也^一廿八世^一奠師^一代^一從^一寛文二^一壬寅^一年^一堯達^一号^一内^一正院日精^一相議^一後^一山^一大^一分^一切^一三^一開^一之^一埋^一三^一東方^一谷^一御靈骨^一土^一藏^一引^レ之^一再^一建^一△^一廊下^一長十五間^一作^レ之^一此^一外^一武井房上^一迄^一切^一三^一開^一之^一爲^ニ火^一ノ^一用心^一古^一法^一眼^一画^一有^レ之^一小方丈^一引^レ此^一所^一可^レ然^一之^一旨^一從^一京^一都^一二^一天下^一聞^一人^一茶人^一佐野^一紹^一益^一法^一橋^一參^一詣^一勤^一之^一依^レ之^一奠師^一雖^レ有^一此^一催^一修營^一繁^一多^一不^レ果^一此^一望^一云^一

卅三世日亨代宝永四^一丁亥^一年^一十月^一四^一日^一未^一ノ刻^一ノ^一大地震^一ニ^一拜殿^一等大^一破^一損^一ノ故^一ニ^一又^一後^一口^一ノ^一山^一近^一フ^一危^一キ^一故^一ニ^一引^レ出^一南方^一少^一寄^一西方^一宝藏^一再^一興^一爲^ニ宝^一形^一屋^一根^一置^一金^一表^一利^一四^一角^一懸^一宝^一鈴^一四^一辺^一作^一玉^一垣^一以^レ石^一築^一之^一金^一張^一付^一戸^一扉^一塗^一莊^一飾^一新^一之^一

(41オ)

(41ウ)

又中央拜所并廊下拜殿悉再興、繪天井、金物兩方、位牌檀内外金地繪等新營此ノ、再興ノ本願者、松平大納言領宣如息女、芳心院妙英、日春大姉也。宝永五戊子年十一月二十八日卒、依之、毎月二十八日於宝篋、自我佛師之回向ス、芳心院者發珠院ノ孫也、宝篋木ト發珠院ノ建立ナル故日乎、亦其由緒也。

宝蔵ノ内ノ張付

往古宗祖一代、図有レ之、朽故破壊難、見故日亨代、為ニ金張付、繪ハ狩野永叔筆

御靈骨ノ宝塔者

廿五世深師代、寛永元甲子年十一月入用三百五十目、此内二百四十目八分ハ、勸物百九匁二分ハ、中富次良右衛門、金物ハ、中河藤四郎同父妙仁寄進番衆寮ノ、古帳ノ中ノ深師筆記ニ有之

高祖御靈骨ノ宝瓶ノ書付ケ

天正十八年庚寅九月日ト有之、天正十八年ハ十七代新師代ナリ

身延山舍利塔、施主越中東郡生緣、越後府内住侶、後藤兵庫藤原貞秀作

〔宝篋書付ト、深師ノ記録ト相違、可考乎、師ハ宝篋ノ書付不見、（再曰、宝篋ハ天正十八年ナリ、宝塔ハ寛永元年ナリト）〕

水精玉塔八角

身延山諸堂記外（北沢）

(42オ)

幅三寸長六寸宛此ノ幅長ノ水精希有也、柱之彫四天王後藤祐乘

宝塔ノ内斗帳

南無日蓮大士、織付白地金鋼輪宝ノ紋

二王

長一尺四寸五分、運慶作、今ハ古仏堂ニ安置

枝珊瑚

長三寸横五寸三分、枝四ツ有リ

唐陶線香立一対、今ハ東ノ宝蔵ニ納在之

阿蘭陀金ノ作花一対

三具足

一尊四菩薩、大智子入

蓮祖大士、開光四条金吾殿、日頼ノ持仏堂ノ、五尊也、釈尊長一尺四寸四分、四ササノ立像長七寸四分

舍利塔

惣長八寸五分、中ニ舍利八位有レ之

中尊兩仏四菩薩、坐像、大智子入、今ハ古仏堂ニ安置ナリ

正中山第三世日祐聖人開光

中尊座共ニ惣長二尺余、日祐師筆

兩仏坐像長八寸八分

身延山諸堂記外（北沢）

(43オ)

四菩薩坐像六寸宛」
内体ニ各妙経納レ之今此ノ妙経者取出シ還置蔵ニ在レ之」
大黒天神像尊子入」

「長一尺四寸内ニ妙経有レ之由蓮祖大土作」
右ノ三厨子日亨代作レ之」

施主江戸神田鍛冶町山田吉平号法理広院常祐日富
同 神田塗師町山田太郎兵衛号法円修院淨信日行

板本尊今ハ東宝蔵ニ有之」

本尊写ニ蓮祖筆ニ歟彫刻有レ之下漆書第二「祖日向
上人筆也幅一尺八分長二尺七寸厚サ一寸一分」珍
奇ノ本尊也」

本尊ハ題目両仏四ササ鬼子母十女梵天帝釈日月」
四天王ナリ梵字無レ之下漆書云正安二年庚子十二」
月日右為ニ日蓮幽靈成仏得道乃至法界衆生」平等
利益」敬造立立之一日」上」正安二庚子年ハ宗祖入滅第十九年也向師
二年ヨリ至三正徳二年壬辰四百十三年也」

板本尊今ハ東ノ宝蔵ニ在レ之」

第十五世日叙上人筆長四尺二寸幅二尺四寸」
六老僧并当山歴代列レ之」
身延山久遠寺宝蔵安泰」

(44オ)

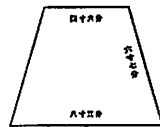
天正元癸酉七月廿五月初建立之巨上」
百四十也」
從天正元癸酉年
至正徳二年壬辰

大之塔婆」

栢木余残一切一升ハ長尺六寸三分」

此ノ塔婆往古ハ大木也切取為ニ仏像等ニ諸人請
求珍敬近年禁而不レ分ニ与レ之此塔婆因縁者」小
室妙法寺日伝上人掃伏之元由詳ニ諸人ノ口碑」
初号ニ肥前公惠朝房ニ志摩房ハ日伝ノ俗弟」朝学
院日義ノ開基也」

御硯



房州清澄山ニテ」御所持ト申
伝フ」

御履一足 雪駄也」

磬台」

甲斐信玄密附机同時ニ寄進今ハ在御蔵ニ也又高麗木七輪」
四卷ノ妙経寄進毎卷信玄筆奥母有之」

斗帳」

宝永元年甲申年南呂古辰日有代 寄進主古密相願」御条御
自筆ノ金字妙経 三山足 七宝珠數十通同時」寄進之」

四夜叉神ノ像 定朝作」

茶屋中島長意日是納レ之」

(44ウ)

(43ウ)

〔註〕

(1) 二ノ一〇九、三ノ十四〈押紙・朱字〉

(2) 三ノ十六〈押紙・朱字〉

(3) この一項41ウ・42オの欄外上部に追加記入の爲に
行末を示さない。

(4) 書陵部本には「八粒」とある。

〔1〕 宝蔵中央三間半四方拜所并廊下

日亨代改造之由如上上記云云

中央卓台并疊台亦造之

掛簡板二枚

東方へ宗祖当山開闢文永十一申戌年六月十七日

西方へ宗祖入滅弘安五年壬午年十月十三日

金字妙経全祿

日亨代紀州盛隆寺ノ隠居権律師通同院日湄自紙書写取之

〔註〕

(1) 二ノ百十四〈押紙・朱字〉

〔1〕 同拜殿六間二四間外縁

中古七間半四方ニ四面各ノ三尺縁拜殿也又掛物
床有レ之脱師代構ニ位牌壇ニ大名位牌置レ之然ニ宝

身延山諸堂記外(北沢)

(45ウ)

永四丁亥年十月四日ノ大地震ニ拜殿并地盤」大ニ

破損ス又拜殿位牌同所見分不レ宜故日亨代拜殿

縮レ之替レ之再興位牌堂別新建ニ立之奉行僧

親傳日師大工棟梁池上藤兵衛宗道

三具足」水戸宰相後ニ中納言朝宗御寄進 日名師代

前机」日亨代下山邑飯野惣兵衛法号法了院宗受日行寄進

訓読妙経三十部

施主 武江住 齊藤帯刀利照 法号 利長院円成宗栄日茂 日亨

代請レ之日中経真読也夏中訓読」證レ之

経机三十四脚

并疊台以上七床并香盤ノ台 日亨代新造

貫首机 蓮華時給」施主養珠院妙紹日心

磬台」日亨代施主幸阿弥与兵衛

過去帳台時給輪宝

父可成道成 母貞成妙蓮 施主蔣絵師上領三右衛門」

為 父惣悦信士 母明意 施主節師川西久左衛門

廊下拜殿ノ間金地ノ幔 金地ノ雲ニ白并桁橋ノ紋

施主京根盛源茂六郎右衛門

金灯笼并台共一对」日亨代造レ之金物莊加ス

(46オ)

(46ウ)

身延山諸堂記外（北沢）

宝藏井中央廊下拜殿「宝曆三癸酉年九月十七日、（註）續板、葺更成

就六）
常灯明一对唐其鎗 日養師代」

施主 尾州住人土屋庄兵衛笹屋伝兵衛安田屋彦兵衛」

同一对中央 今ハ古仏堂ニ基 奥位牌堂ニ一基在之」

施主 江戸新吉原鶴屋市三郎妻」

金灯笼一基常夜灯」

（註）
施主 尾州関口門明院尼 聖教金屏風一 又同時寄進」
永代油料金七十兩納之」

宝塔一基砂羅人軸安置」施主 加州金沢住富田屋長兵衛」

中央疊永代毎年表替金貳拾兩納之」施主 加州ハ沢綿屋源助」

御真骨前永代不易常經誦誦ノ施主」

（註）
美濃安八郎今居住 足立庄六 納金有之依テ」文化十

二年乙亥 四月二十五日ヨリ祖師堂開帳番之」老

僧一人宛無ニ懈怠ノ勤レ之」

天蓋細川清心院殿寄進」

唐金灯笼一对 安永二癸巳六月 応師代 施主 大坂河内屋本間氏彦兵衛」

同油料金貳拾兩 安永八己亥六月納之永代日夜常灯油料也」
（註）
豊師代 施主 大坂本間氏

〔註〕

（1） 三ノ十九ハ押紙・朱字

（47オ）

一奥位牌堂三間」

三十三世日亨代宝永五戊午年新建立、由如三」上記ニ

安置大名位牌、悉如三目縁、云云」奉行僧（註）宗徳日勝大

工棟梁池上藤兵衛宗道」

内陣」

東照宮始メ御内縁ヨリ納牌御本丸之御位牌ヲ」

安置也」

外陣」

大名方之御位牌安置也」

外陣ハ文化十三丙子ノ秋再興有之也 五十四代審師代」

〔註〕

（1） 二ノ百卅四、三ノ卅二ハ押紙・朱字

（2） 書院部本に「目縁」とある。

一古仏堂四間ニ四間半外縁四方各三尺五寸宛」

三十一世脱師代新造立古仏収レ之新仏又有レ之」

（註）
悉如三目縁、云云」

金ノ位牌元禄九 丙子 曆四月日 日脱形」

施主本願五人ノ名有之位牌ノ裏ニ有、三十四人、

（48ウ）

（48オ）

法号二

日亨代修補前方内縁入内陣上長梁ヲ用テ柱ヲ二本除之釘隠打之為レ去三雨湿一以三油丹一塗之」以レ石築之」

右ノ修補兩人施入スル故ニ重テ立三位牌、後代此ノ一兩家ノ子孫繁栄ニ可レ致三此堂修營一也」

江戸神田區清町 法号理広院常祐日富」

山田吉平 法号円修院淨信日行」

山田太郎兵衛 法号円修院淨信日行」

宝塔惣丈二尺三寸 日亨代」

武江臨輪寺懸遠院日遙聖人納之」 宝永六己丑年十月十日 六十五歳卒」

一部妙経一卷 日遙筆」

遺言収之可レ為三懺法執行本尊」

青貝ノ机 唐物櫃二尺八寸四分 奥入一尺九寸二分 高二尺四寸

施主甲斐信玄晴信高麗七卷四巻ノ妙経 唐物ノ舞台宝蔵ノ内ニ有之又寄進之」

如意一柄長一尺九寸」

書棚個六尺一寸二分 高四尺九寸

東照大権現御道具也」養珠院妙紹日心収之」

灯笼」

從御本丸二獻三東叡山御座座一之灯笼也絵ハ狩野探信筆 御本丸

身延山諸堂記外(北沢)

侍女右衛門佐収之」

書写摺写ノ妙経数部」

悉如三別録ニ好本置三古仏堂中下ノ本ハ東蔵ノ二階ノ棚ニ有之之毎年附レ意可レ私三蠶魚一也」 三具足

金灯笼二基

身延山久遠寺古仏堂御宝前

奉寄進一金灯笼二基

為三妻秋月院樹榮妙円日信靈菩提」

元禄十丁丑年五月三日甲州下大鳥居村内田」

市郎左衛門法信了院松樹常円日受」

鑄物師江戸宇田川甚右衛門信重」

〔註〕

(1) 二ノ百廿八ハ押紙・朱字

一靈宝蔵三間四方拜殿三間半

廿八世奠師代建之」

卅一世脱師代ニ山崩破損スル」故ニ改造之」

卅三世日亨代宝永四丁亥十月四日ノ地震ニ又損スル故南ノ地江少引レ之造三宝形屋根一作」覆



身延山諸堂記外（北沢）

新窓戸、以石築之造、玉垣、又引、昔、廊下、拜殿
トス為、避雨濕、以油丹、塗之、宝永七庚寅十月十二日、寶永殿上乗之杜、
奉行僧宗伯、日敬、大工棟梁、池上藤兵衛宗道、

靈宝櫃二棹、時給井術橋ノ故、

日亨代、武州住人、中村七右衛門寄進、

西之靈宝藏者珍希靈宝取レ之朝意伝等筆、記亦有レ
之從、古米二方丈貫主、封印也日亨代、老僧評定中相
議為、三方丈老僧相封、是恐三慮、紛失、一故也貫首在山
之節者藏ノ外戸貫首方、丈ノ院主五老僧ノ内当番
日三判印封貫首在、江節者方丈院主五老僧、内当
番兩印封永、代不レ可レ遊レ之者也、東土藏者通途
書籍及、世具納レ之故方丈ノ院主役人ノ封ニテ可
開閉之、

靈宝ノ目錄等ハ委如三別記、云云、

靈宝ノ額ハ日亨師ノ筆、

靈宝長持一、時給養ノ御紋繪川形部御息女松平礎一摩守重兼室為意
昭隆殿内庇置珠大姉ナリ、明和七庚寅年九月締之、四
十五代日代、取次滝山八重崎、

同一棹、時給養ノ御紋、

御朱印長持一、棹柄ノ白木ワック入ナリ、

御繪旨長持一、棹柄ノ白木ワック入ナリ、

(51ウ)

(52オ)

(52ウ)

嘉永七 甲寅 正月新作レ之、六十六世 日新代 是堂御繪旨同シ長持
入ル、

靈宝藏家根者雖、本為三檜皮葺ニ享和三年、癸亥之夏
五十一世日全代、以三有合之銅板、而葺、更於三銅屋
根、二者也、時執事 門台切 工匠坂上宮内宗純 屋根、工匠小倉南右衛門
木挽工匠望月安右衛門以上全師板本尊ニ有之、

西靈宝藏塗替施主当国台ヶ原北原伊兵衛、文政十三庚寅
代年、

一東土藏三間ニ四間半、

脱師代ニ後ノ山崩テ潰レ之此時陶器等損失多レ、之
依レ之改造、

日亨代宝永四、丁亥年十月四日ノ、大地震ニ又損ス
ル故ニ為、後代、南ノ方江引ニ從、之又、二階卑故登
者苦、撲三頭、依レ之統、柱葺レ之、窓網金戸屋根新
之、以レ石築レ之、奉行僧宗伯、日敬、大工棟梁、池上藤兵衛宗
道、

東宝藏塗替施主当国台ヶ原北原伊兵衛、文政十三庚寅年
同時ニ繪旨日環
代、西東、

(53オ)

一經堂前ノ庭 泉水等 堂前ノ橋 石灯笼并上ノ山ノ
 滝ノ下ノ橋 塔形ノ石灯笼 茶亭二箇所 拜石
 位牌 堂前ノ花壇 書院東ノ方ノ小庭 靈宝藏前
 藤一棚 古仏堂辺ノ井并ニ蓮ノ盆地 日亨作レ之
 作り松 從⁽¹⁾駿州ニ寄進 諸木從⁽¹⁾地中ニ多ク來ル
 池ノ西ノ大石ハ從⁽¹⁾上ノ山利堂邊引レ之 西ノ方
 ノ中門新ニ造ル 花ノ檀ノ門 藏ノ門等 亦新造
 宝永五^{戊子}年夏也 一
 庭ノ作者ハ本妙院京都妙頭寺ノ住僧也遠光寺ノ
 住持日能ノ法類也閑^三居^{甲州}一

[註]

(1) 駿州大宮羽根伴助ヨリ寄進歟 大泉寺江申含遺ス
 ト亨師ノ書狀アリ此書狀今岸ノ房ノ常什ナリヘ頭

註

(53ウ)

一廊下七箇所 一
 日亨代立レ之 從⁽¹⁾小書院ニ至⁽¹⁾經堂 從⁽¹⁾經堂ニ
 至⁽¹⁾宝藏拜殿 從⁽¹⁾書院ニ至⁽¹⁾宝藏拜殿 從⁽¹⁾宝藏
 拜殿ニ至⁽¹⁾位牌堂 從⁽¹⁾位牌堂ニ至⁽¹⁾古仏堂 從⁽¹⁾古
 仏堂ニ至⁽¹⁾靈宝藏 從⁽¹⁾靈宝藏ニ至⁽¹⁾東土一藏 一

身延山諸堂記外(北沢)

(54オ)

一書院并學問所休息所^{七間半}
 日亨代合^三所^一棟ニ新造ス 奉行僧 觀音日講 大
 工棟梁池上藤兵衛宗道

往古別々有レ之中古ノ書院ハ八間半ニ九間廿九世
 筵師代新ニ造ル此ノ地築地ナル故ニ每度地形損
 シ順又檐卑ク短キ故雨濕^シ外縁^ニ暴雨時水入^ルニ疊
 上^ニ日亨代欲^ク立^テ藏^ニ經^堂於^テ東方引^キ徙^ス右書院於^テ北
 方事^ニ兩度新造^ス學問所^ニ作^ル休息所^ノ所^ニ修^ム營^ス
 然ルニ宝永四^丁十月四日未^ニ刻^ノ大地震築地ノ
 所^ニ大^ニ損壞^ス經堂ハ既^ニ立^テ未^ニ滿^ク作^ル時一時ニ
 類^ノ毀^ス費用頗^ル多シ是ノ故ニ經堂ハ徙^シ西方堅
 剛地ニ重立^レ之又為^テ後代合^ニ於^テ書院學問所休息
 所^ニ為^シ一字^ト新建^ス立^テ之^ニ宝永五^{戊子}年也 一
 書院^ノ繪者^ハ武江狩野春笑筆^ニ華夷參詣^ノ人感信^一
 為^シ金地極彩色 一

[註]

(1) 二ノ百六十八押紙・朱字

(54ウ)

學問所休息所書院次ノ間ノ繪モ同筆也 一

身延山諸堂記外（北沢）

一料理所四間ニ八間 御膳所ナリ

一湯浴所二間ニ三間

一金支配部屋御免部屋ナリ

右三箇所日亨代悉再建

〔註〕

（一）二ノ百七十二へ押紙・朱字

（55ウ）

從上之山通

之部

至奥之院

奥院道行程五十丁之間有レ之諸堂

一祈禱堂六間半四方外縁五尺宛

此ノ地ハ本ト番神社ノ古跡也

番寮三間半ニ廊下九尺ニ今ハ無之所在テ没ス

第三十一世脱師代貞享年中新建立為ニ天下安全

妙法広布ニ定ニ三十六人僧昼夜ニ不斷読誦妙經

日本國中雖多御祈禱所ニ不斷読誦經王恐但

限ニ当山ニ

本尊者 釈尊 五番神 祖師ノ像也

釈尊并宗祖ノ尊像者

（56ウ）

貞享三丙辰年施主甲州長沢村等学院日淨
十二月十六日
五番神者

施主佐渡塚原根本寺日行

漫茶羅

貞享四丁卯年十二月廿四日 日脱半形

斗帳

御本丸侍女右衛門佐寄進

妙經三十六部并机

中ノ間天井ノ丸竜ノ画狩野永叔十五歳筆

祈禱堂三十六房結衆

脱師代各勸ニ施主ニ新建立金子方丈預ニ借与ニ利

足ニ各遣ニ扶持ニ又加ニ修覆ニ此外ニ祠堂金有レ之房

有レ之委如ニ別記

又其房無レ水或場所不レ宜故撰ニ入余房ニ亦ニ有レ之

雖レ然読誦結番永々無レ減

三十六房ノ名

上ノ山瑞光房

正徳三癸巳年東谷
テ字立坊ヲ改メテ
号瑞光坊

南 谷観松房

本在田代
南谷蓮成房ニ撰ス
之

同 芳心房

殿閣谷高雲房
殿閣谷秀悦坊ニ撰ス
之

同 慶雲房 細荷 実道房^(ト)之^(ト)南谷敬神坊ニ撰ス

同 長安房 西谷 宗幸房^(ト)之^(ト)撰ス

同 妙心房 田代 長松房^(ト)之^(ト)撰ス

同 法蘭房 同 清耀房^(ト)之^(ト)撰ス

同 清玉房 同 宗林房^(ト)之^(ト)撰ス

同 忍脱房 名^(ト)忍脱坊成道庵^(ト)正徳三癸巳年シホ^(ト)撰ス^(ト)成道坊ニ撰入^(ト) 田代 見塔房^(ト)之^(ト)撰ス

同 貞俊房 真善房^(ト)本在^(ト)惣門^(ト)春光^(ト)切代ニ引^(ト)移^(ト)ス西^(ト)江^(ト)

同 春光房 同 松玄房^(ト)天保年中東谷江移^(ト)ト改名^(ト)扇師代^(ト)

東谷 春窓房 本在上ノ山^(ト)橋矢^(ト)撰^(ト)ス^(ト)東谷南林坊ニ^(ト)撰^(ト)ス^(ト)故ニ^(ト)撰^(ト)ス^(ト)同 仁淨房^(ト)之^(ト)撰ス

南谷 淨蓮房 正徳元辛卯年字忠^(ト)撰^(ト)ス^(ト)南谷忠光坊^(ト)ニ^(ト)撰^(ト)ス^(ト)田代 長寿房^(ト)之^(ト)撰ス

田代 中山房 西谷 妙善房^(ト)明治三庚午十二月^(ト)合併^(ト)ノ^(ト)慶林坊ヲ^(ト)妙善坊江^(ト)明^(ト)治^(ト)七^(ト)甲^(ト)成^(ト)十二月^(ト)十五日^(ト)又^(ト)慶林坊ヲ^(ト)明^(ト)治^(ト)十^(ト)乙^(ト)亥^(ト)七月^(ト)四^(ト)日^(ト)教^(ト)坊^(ト)江^(ト)合^(ト)併^(ト)ヲ^(ト)林^(ト)蔵^(ト)坊^(ト)江^(ト)合^(ト)併^(ト)ス

田代 宗賢房 中谷 仙台房^(ト)慶応元乙丑十二月^(ト)十四日^(ト)門^(ト)焼^(ト)失^(ト)ノ^(ト)時^(ト)火^(ト)元^(ト)ナ^(ト)リ^(ト)夫^(ト)コ^(ト)リ^(ト)再^(ト)建^(ト)無^(ト)ニ^(ト)明^(ト)治^(ト)七^(ト)年^(ト)十二^(ト)月^(ト)内^(ト)台^(ト)坊^(ト)江^(ト)合^(ト)併^(ト)ス

身延山諸堂記外(北沢)

西谷 芳春房 明治七年法皇坊へ南谷 淨栄房^(ト)丁^(ト)代^(ト)ニ^(ト)南^(ト)谷^(ト)玉^(ト)蔵^(ト)坊^(ト)ニ^(ト)撰^(ト)ス^(ト)之^(ト)又^(ト)タ^(ト)再^(ト)撰^(ト)ス^(ト)建^(ト)テ^(ト)改^(ト)常^(ト)栄^(ト)坊^(ト)明^(ト)治^(ト)七^(ト)年^(ト)東^(ト)ノ^(ト)坊^(ト)江^(ト)合^(ト)併^(ト)ス^(ト)谷^(ト)ニ^(ト)改^(ト)造^(ト)ル^(ト)

同 信了庵 明治七戌十二月國^(ト)東^(ト)谷^(ト)清閑房^(ト)本在^(ト)上ノ山^(ト)後^(ト)撰^(ト)ス^(ト)テ^(ト)改^(ト)坊^(ト)屋^(ト)敷^(ト)移^(ト)レ^(ト)之^(ト)通^(ト)ル^(ト)明^(ト)治^(ト)七^(ト)年^(ト)一^(ト)月^(ト)庚^(ト)申^(ト)寺^(ト)

同 本学房 明治七一月庚申被^(ト)同 顯成房^(ト)東谷敬神坊ニ撰^(ト)ス^(ト)之^(ト)室^(ト)永^(ト)七^(ト)庚^(ト)寅^(ト)年^(ト)申^(ト)付^(ト)

同 渋谷房 明治七戌一月庚申 上ノ山 円光庵^(ト)明治七戌十二月^(ト)本^(ト)院^(ト)江^(ト)合^(ト)併^(ト)

祈禱堂前金灯笼二基^(ト)

銘云^(ト)

右灯笼ニ經王^(ト) 当体義均^(ト) 善哉此器^(ト) 法供養具^(ト)

左仏敎ニ卑諦^(ト) 護ニ然灯^(ト) 供^(ト) 善哉此器^(ト) 得ニ尼品^(ト)

宗^(ト) 元禄癸酉初秋^(ト)

沙門同広銘 正住院正日中ナリ^(ト)

施主甲州小河原清心院清閑日忍立^(ト)

同石灯笼二基^(ト)

銘云^(ト)

右灯火入ニ石籠^(ト) 能免ニ風雨災^(ト) 信心依ニ經王^(ト)

厄債不^(ト)得^(ト)来^(ト)

同石灯笼二基^(ト)

銘云^(ト)

右灯火入ニ石籠^(ト) 能免ニ風雨災^(ト) 信心依ニ經王^(ト)

厄債不^(ト)得^(ト)来^(ト)

同石灯笼二基^(ト)

銘云^(ト)

右灯火入ニ石籠^(ト) 能免ニ風雨災^(ト) 信心依ニ經王^(ト)

厄債不^(ト)得^(ト)来^(ト)

身延山諸堂記外（北沢）

（朱子）
左壁頭古首肯 今又見放光^レ 共是仏種作能^{（4）}

成三大吉祥^{（1）}
元禄五^{（5）} 正月吉辰 沙門正己子銘

施主甲州山神村住三井織右衛門

祈禱ノ額者 光悦日允師ノ筆

祈禱堂半鐘

(58ウ)

〔註〕

- (1) 「長沢」の左註に「青柳」とあり。
- (2) 「等学院」の左註に「昌福寺十三世」とあり。
- (3) この一行欄外上にあり、本文への入挿には書陵部本を参考にした。
- (4) 「性」を「種」と訂正。

一願主堂^{（3）} 三四方外縁三尺

一円院日脱聖人ノ影堂也 祠堂金附^{（2）} 置之 毎日読誦全部勤之

願主堂前金灯籠^{（2）} 二基^{（今ハ無之）}

銘曰 理即究竟 真俗洞明 薦^{（3）} 六靈魄^{（ハツ）} 供^{（ス）} 双

金槩^{（1）}

元禄乙亥季秋中旬

(59ウ)

施主甲州小碓^{（1）} 内藤金右衛門
鑄匠江戸神田住宇田川甚右衛門政信

六靈者

父清心院清閑日忍 宗林日寿

母心澄院妙閑日恵 妙閑日応

正善院宗円日住 覚幻

石灯籠^{（2）} 二基^{（享和三亥天）} 全師代宮焉

前机 井三ツ具足^{（文政十亥年 四月六日）} 五十七世日舜判形

〔註〕

- (1) 「笠」を「河」と訂正。
- (2) 「惹」を「恵」と訂正。

一鐘樓堂九尺四方

一夏之間日中 推^{（2）} 之故云^{（3）} 夏鐘^{（4）} 本此国大井庄^{（5）} 村

真言宗最勝寺之鐘也 乱世時此鐘并領主^{（1）} 墨印預^{（2）}

当山^{（2）} 遍師代從^{（3）} 最勝寺^{（4）} 訴^{（5）} 公所^{（6）} 欲^{（7）} 返^{（8）} 寺延山

円理院出^{（9）} 公所^{（10）} 最勝寺鐘可^{（11）} 返^{（12）} 之若爾富士有^{（13）}

之板本尊者本延山重宝也 可^{（14）} 返^{（15）} 賜之 旨訴^{（16）} 之公

評果^{（17）} 成有^{（18）} 来者互^{（19）} 不^{（20）} 可^{（21）} 返^{（22）} 依^{（23）} 之于今延山有^{（24）} 之

(60才)

銘曰 諸行無常 是生滅法 生滅々已 寂滅為樂

甲斐国大井庄最勝寺之供鐘
弘安六癸未八月日時正

当寺住持長老比丘空円

大工沙弥十念

夏鐘堂葺替施主 甲州巨摩郡西郡長沢村内田利右衛門 (時) 院役所 廿

露院 (時) 本行坊 (取次代官) 与兵衛

同葺替 嘉永完成申十二月日 (時) 院代役 (普請) 大慈院日等 (音) 妙信院日法 (奉行) 英中院日孔

跡方 南向坊 (耳師) 両右衛門 (源新兩師二枚)
鏡方 隅之坊 (耳師) 久右衛門 (坂本尊有之)

[註]

(1) 書陵部本には「黒印」とあり。

(2) 遍師ノ

山本房十六世門理坊開基
円理院日逾贈聖人
弟子 天和二壬戌三月八日八十五歳化 (頭註)

(1)(2)
一 影現七面大明神 三間四方外縁三尺五寸

并 幣殿 一間半二間 拜殿 二間半三間半
縁三尺五寸 外縁三尺五寸

本小社也三十二世省師代勸化諸方、新建立、本願

身延山諸堂記外 (北沢)

(61才)

人簡板掛之毎月有二祈禱

棟札元禄十四年辛巳十一月廿九日 日省判形 ウラ書

ニ大工棟梁 同上本人宗次 発起主孝権院日達 以上

七面像両体 遍師開光

小座像 寛永十七庚辰九月吉日
大立像 七氣仏師 兵部郷康与

七面像 山内竹之阿月取之 御厨子共ニ此ノ厨子ハ円師堂江移之

同厨子 (3) 文政十三年十月甲州金原村樹森惣七納之本ト祖師ノ
御厨子也相節共ニ取之祖師ハ中合松御應江移之

鳥居 施主江戸住杉本長左衛門

同再建施主当所狐野田中徳兵衛島居修督ト掛札有之

隨身之像二鉢并師子犬二獸

同二体 梳若厨戸神 三十二世日省判形
豊若厨戸神 同断

神鏡 嘉永二己酉年七月於江戸深川開帳之初 日新師代

五具足 同年ニ取ル 燭台二ハ 神田池上取持持中 香炉一ヲ卯ノ御盛御
花瓶二ハ 京橋北橋中

女性外ニ迎名有之

御膳具 同年ニ取ル

斗帳 同時ニ取ル

七面大明神 鐵額 在拜殿 華形監舟拜書 明和七庚寅 応師代
施主 江戸 (吉見屋平) 久松町 伊勢屋治兵衛 同所
江戸 (海老屋平) 左衛門 村松町

三十六歌撰之額 三十六枚 近衛左大臣殿御盛歌ナリ (三鏡院同敷
西ハ持野今化紙 慶長十九甲

身延山諸堂記外（北沢）

大初 實十月廿五日辛施去武州住人加治左馬助治家日
法号内德院日僧慶長十八癸丑二月廿五日去 慶長十
四庵集己酉季秋良日 日遠判形 守御室前久遠寺常住

〔註〕

(1) 下ノ百十五へ押紙・朱字

(2) 此統キ下ニアリへ頭註

(3) 「司」を「子」と訂正。

(4) 以下三項目は、記載煩瑣に付、行末を示さない。

一番神社九尺四方拜殿五間ニ三間外縁四方

雖レ云ニ三番神ニ但天照八幡ノ二像也往古此社在三波木

井ニ南部六郎実長鎮守八幡金像也若人不下馬ニ

過ニ社前ニ又服ニ新衣ニ者有ニ現罰ニ故恐懼願レ奉レ

徙ニ当山ニ

其後片隈沢立社十五世日叙師令レ刻ニ「天照像」内

納ニ書写、妙経ニ為ニ一像、社ニ

其後又「移ニ今祈禱堂、地ニ

廿八世奠師代開レ山平地移ニ今地所ニ從ニ往古ニ鎮

守賞罰現驗、故真俗恐敬」深重

十八世日賢師棟札ニ枚有レ之共ニ是レ拜殿ノ「札

文言同也慶長三戊戌七月二日柱立至二十三日」令ニ

(62オ)

周備ニ了大檀越淺野右近大輔忠吉建立之」忠吉ノ

法号大通院殿南叔道英七十五才」元和七五月七日卒法葬宗也」

大工棟梁池上新之丞巳上」

毎年八月十五日齋奠法事有レ之」

石壇 三日講酒料積レ之作レ之」

鳥居 從ニ身延山内氏子中ニ立レ之」

八幡宮ノ額ハ三十六世日潮師ノ筆此額而赤狀ノ八幡社江モ写レ之遺ヌ

十八世日賢師代忠吉建立之拜殿歷レ年、朽故見分」

不レ宜六十六世日新師代再建嘉永六癸丑年十二月」

吉辰上棟施主ハ山内地中井門前惣氏子中」世話方

名主惣年寄中三町惣代也」大工棟梁池上図書宗員

池上伊織宗治」武田頼母宗武」

〔註〕

(1) 下ノ百廿九へ押紙・朱字

(2) 此ノツキ下ニアリへ頭註

(3) 金像ニ 天文十三甲辰 霜月吉日願主敬白伊羅原藤

兵衛五十嵐産九郎吉信 ト有之へ頭註

一五重塔三間四方高サ二十間半

第廿四世要師代元和四戊午五月三日斬初七月」七

(62ウ)

(63オ)

日繩張同五_{己未}十月成就十一月十三十四十五日塔」供養有_レ之」

高サ廿一間但シ九輪共一丈八尺六寸四面」

池上五重塔ハ十九間ニ一丈六尺四方」

滝谷妙成寺ノ塔ハ高サ十八間也」

施主ハ加賀能登越中三国ノ太守松平肥前守」從三位中納言源利常ノ母堂寿福院花岳日」榮大姉建立

也寛永八辛未年三月六日卒池上ニ於テ火葬ス」

依_レ之毎月六日於_二宝殿_一自我佛調_レ之回向ス

奥院前ノ祖師堂モ亦此寿福院ノ建立也」

本ハ位牌堂ノ前有_レ之廿八世奠師代今ノ所_{正移}」

之」寛文三_{癸卯}年也施主日榮大姉之_彦」松平加賀

守網利後_{ニ号}此ノ料金子八百兩也」奉行ハ清水八郎

右衛門也此_{仁切}番神地ノ木_又鐵_入故_ニ神罰_{ニテ}其ノ子多ク死ス

依_レ之天_ニ畏_レ道_其料物_令植_木云云」

要師棟札 大日本国甲斐国巨麻郡波木井」郷身延

山久遠寺五重宝塔棟札謹染毫之」広宣妙法濟渡衆

生之本基豈如_レ之乎」信心願主加能越太守諫議朝

臣母公寿福」院日榮抽_ニ於_{淨信}建_ニ於_{靈廟}三宝威

力」縱横無窮二世祐利寧不_ニ莫太_ニ耶」

身延山諸堂記外(北沢)

(63ウ)

(64オ)

天下御大工遠州住人鈴木近江守藤原長次宗味日

義」

三鬼島長門守吉次蓮真日実」

半田半右衛門尉正定法正」

真下惣右衛門尉吉治」

鈴木弥治郎忠重」

池上源藏宗重」

樋垣吉左衛門吉久」

山崎嘉兵衛久次」

岩瀬多兵衛正次」

長辺茂太夫久定」

雲野伊兵衛正次」

高木彦左衛門吉定」

惣執権山本房日彦」
普請奉行東之房日讚 法雲房日詮」

大工奉行唯雲房日達 雲超日通」久成房日宗 長

順日満」

元和万年第五竜集_{己未}九月如意珠日」

奠師棟札_{是ハ上ノ山江引移ノ時ノ札也}」寛文三_{癸卯}年六月

吉祥日 日奠_形」

(64ウ)

身延山諸堂記外(北沢)

〔註〕

(1) 二ノ百七十五(押紙・朱字)

(2) 文政十二年焼失(押紙・朱字)

(3) 「六百五十兩」を「八百兩」と訂正。

〔1〕(2) 一利堂(三四方外縁)

本トハ祖師堂ノ上ニ有之(寶師代寛文二(慶長五年)被テ移之)

第十一世朝師ノ建立棟札有之(横板也)

大日本国甲斐国波木井郷身延山久遠寺 十羅刹堂

建立勸進沙門加賀国住人 浄蓮房日源 甲州住人

宗林房日増

明応三年 甲寅 七月日 至正徳二壬辰年(二百十九年也)

大工藤原五郎左衛門久吉

奠師代引移ス時ノ棟札

寛文二壬寅年十月吉祥日 日奠(朔形)

葺替日亨代 宝永二乙酉年正月廿二日

施主甲州浅原村五味半弥 法号 盛信院経怡宗隆日

紹

別当法達日久当山地内門前近村ヲ奉加ノ御拜」之

柱ヲ二本入レ以ニ檜皮ヲ家根替成就ス(天保)

鬼子母神ノ額者四十五世日応師ノ筆也

(65オ)

(66オ)

〔註〕

(1) 下ノ百卅一(押紙・朱字)

(2) 此ノツキ下ニアリ(頭註)

位牌廿五日 児文殊清境院(輪朗)日遍(霊位) 天和六丑六月再興(天保三辰六月又再興)

〔宝師代〕

〔1〕 一 児文殊(宮) 三尺六寸 児水

相伝十二世意師(児鶴若丸) 意師ノ代(頭) 天保十四年丁丑(年) 南藤房助若丸ト有之(此ノ児)

ノ事歟

有レ故於ニ此処ニ自殺其後此処水涌出(離) 爲ニ細流

大旱(飢) 無レ乾尤益(諸) 人ニ云ニ(児) 涙 水ニ其後有ニ怪

事ニ(児) 有レ崇(故) 立ニ(文殊) 宮ニ(祭) 之

日亨代ニ又再建ス

宝曆三癸酉年六月 又拜更ス 輪師代

△年フルト松ノ岩根ノ音ムシテ溜キ流レノワツル児水

祥師代再建立(元治二乙丑年五月廿五日棟札有之) 施主(駿) 州富士郡(星) 山村(深沢) 安兵衛(為) 心願成就也

〔註〕

(1) 下ノ百廿六(押紙・朱字)

(2) 此ノツキ下ニ有(頭註)

一宝塔「丈六尺四方外縁」

為「悲母養仙院了榮妙護日立大師菩提」建^ス立^ス之^ニ」
第廿九世蓮師代新建立^一

棟札寛文十^{庚戌}年十一月中旬吉辰宝塔起^一立願主

子州松山城主四品兼隱岐守松平氏「源朝臣定長」

大工泉三郎右衛門正次棟梁羽根多右衛門「同桐原

宗右衛門被官宮内喜左衛門正重」奉行木本彦右衛

門尉藤原重直^一

此塔永代從^ニ松平隱岐守家^ニ修補有^レ之^一

六十二代扇師代右御屋敷江頼^ミ家根更致^ス之^一」天

保十三^{壬寅}年御屋鋪江頼^ミ見分ヲ請ケ同十五^{甲辰}

年家根^一檜皮葺替并外縁張替成就^ス

此ノ塔修復ヲ明治十四年松山法花寺住持名目明ヲ以頼入^ル余也^一明治一新ノ際
家根更致ニ永世ノ修理無^ク來^レ依^テ之^一此塔ト^シ江^ノ頼^ノ江^ノ石^ノ碑^ヲ立^テ永
世不朽^ノ碑^トニ^シリ明治十六年六月久松定次藏家^ノ池田久親^ノ登山右塔^ノ開^ス發
仙院殿御發塔石碑ノ下ニ埋^メ也

〔註〕

(1) 「此塔」以下欄外上に記入の為行末は示さない。

一莖師ノ廟堂二間ニ一丈一尺外縁二尺短三方^一

○明治八年一月十日夜本福房ヨリ出火燄燃焼失飛火頭火^一
○同九年丙子十二月再建成就上棟当山七十四世日隱判形棟札一因日隱上人

身延山諸堂記外(北沢)

(66ウ)

(67オ)

位願堂落成因之明治九年十一月首祥同真當^ニ特別當日光庵二十一世
修明院日蓮覺起世語人完道坊顯成日光^一慶州且山村深沢茂作母大工棟梁
波木井小笠原清右衛門同相内角兵衛一袖木挑新宿月隱太郎世語人波木
井近藤市兵衛相又市川伝兵衛一塩浜望月首吉五郎茂富惣世語人中現安後替
以上要書

一切経蔵六間四方^一

往古者本堂ノ上ノ山ニ有之廿八世尊師代寛文七丁未年引移此地^一

第廿六世暹師代建立也棟札有^レ之^一正保二乙酉年

閏五月廿五日^一建立奉行⁽²⁾延寶曆日用大工棟梁⁽²⁾池上新之丞
阿長右衛門

宗信
門宗久

藏経倭本東叡山板也藏経一々書付板木也^一

法灯永耀未來際 教網普濟諸群萌^一

淨心施主各願滿 同証仏慧順次生^一

皆明曆第二年竜集丙申二月上浣六日^一

当嶺二十七世通心院日境^一

一切藏経甲州身延山久遠寺輪堂^一

施主武州江城募^ニ当山帰依大檀越懇志奉^ニ納^之了^一

傳大師 日暹師判形 施主玉泉節日泉⁽³⁾
本遊院日普⁽³⁾

普成普建 施主蓮信房日達^一

惣位牌当山大藏経奉加一結諸檀明曆第二^一丙申惠

身延山諸堂記外（北沢）

風上院六日当山廿七世通心院日境」

省師代葺更施主位牌甲州泉村大木佐太夫」老母法

泉院妙有日善逆修」

経蔵ノ額者四十五世日応師ノ筆也」

〔註〕

(1) 二ノ百卅九ノ押紙・朱ノ字

(2) (日用) 杉之房代、万治四年四月三日化ノ左註

(3) 三牀衣更 慶応二丙寅年九月 祥師御代

施主駿州星山村深沢安兵衛母 仏工当町茂作 世

話方志摩房日寿 取次利堂春教日恵ノ頭註

(4) 「日」を「世」と訂正。書陵部本による。

一経蔵側廟塔者」

甲府宰相綱重卿母堂」順性院殿妙喜日円大姉廟塔也」

天和三癸亥年七月廿九日逝去依御遺言」当山御

參詣儀式諸堂巡拜全骨第百箇日」忌納当山」其節

從綱重公御子甲府」宰相綱重卿 御石廟位牌御建

立也綱重卿御」没後 正徳元年辛卯年 九月十四日 三十三年忌 贈官

列三將軍」歷代二号二清揚院殿贈正一位内府公 綱重

(68ウ)

(69オ)

卿」成五代常憲院殿御養子、改三代家宣公治」世

三十四年正徳二壬辰年十月十四日五十一歳薨御シ

玉フ」号文昭院院殿贈正一位大相国公」

八条宮様御廟」

天香院殿中務卿智忠親王天真尊寛文二壬寅年 七月七日 後師代

一丈六釈迦堂六間四方」

往古堂前二天門、側有レ之日奠師代移今地」番

僧ノ寮日奠師代新造ノ番僧ヲ置ク」

番僧寮二間三間半」

釈尊 洛西鳴滝三宝寺ノ開基中正院日護」律師ノ

作 廿六世暹師ノ開光也」

奠師ノ棟札 是ハ引移上山時ノ棟札ナリ」寛文四甲辰年

九月廿五日 日奠形」

四天王像 日暹師開光中正日護ノ作天保十二丑三月心 御衣發施主江戸吉

原江戶屋栄親母」

妙経一部 日暹 判形 施主中正院日護判形」

廿ノ千仏堂者今ノ三光堂是也然三光堂故ニ千仏移此ノ堂歟」

千仏堂棟札 千仏造立大施主養珠院妙紹」日心

比丘尼 当堂建立願主日心并遠藤庄兵衛等」奉加

(69ウ)

有^レ之 寛永廿^{癸未}年臘月十六日^{日暹判形} 工
巧棟梁池上新之丞宗信 造營奉行^{鏡智院日用}
要行院日達 延寿房日教^{三具足}

三具足 寛永廿^一甲申四月八日 施主發珠院妙日心

石灯笼二基 施主甲州河内湯平村住僧月五郎左衛門^{法号法祐日性}

灯明施主 甲州河内南部本郷村邊辺五郎右衛門^{法号盛永宗心日性}

独尊ノ額者 四十五世日応師ノ筆 嘉永六癸丑年影替^{別当願自ラ彫刻}

千仏ノ像再興 嘉永二己酉年江戸於^{深川}興院開供之物 諸人ヲ勸メ
院代妙信院日法主人本行房是感院日行并ニ別当願江戸下谷恵性丹情
ノ成就ス

丈六釈尊ノ像御衣更同蓮華坐石ノ坐等新ニ造リ
釈尊二千八百御遠忌奉ニ報恩謝徳者也^{六十六}

六代新師代嘉永四 辛亥二月十五日 板主東都僧者中
形 大仏師東都宮田龍雲 法号秋山院電日僧住士 明治四未九月十三日去

[註]

(1) 大僧都法印 慶安二己丑四月十五日化^{左註}

一相輪塔高^ツ 発起本願優婆塞即如院一相

天明元辛丑年十月十三日四十七世日應師代新ニ建立也
高祖大士五百遠忌御願於^{三祖師堂}妙經 成院供養ノ宝塔也

日應師代新 建ノ塔嘉永七甲寅十一月四日ノ大地震而破壊故ニ檀師代今ノ地江
引移シ⁽¹⁾一再建修復スル者也施主者堀之内妙法寺前住日解後住日應金
五十兩奉納其餘者本院ニ而諸堂再建金ヲ加ヘ成就令者也安政三丙辰年

身延山諸堂記外(北沢)

[註]

(1) 元トハ三光堂ノ下ノ曲リニ有之替地スル^{頭註}

一大黒堂三間半四方

往古祖師堂ノ上ノ山ニ在リ奠師代開^{山引ニ移}

今^工地ニ建立ノ時節未^レ詳往古ハ

宗祖御作大黒天此堂有^レ之中古為^ニ諸尊修營^ニ

呼^ニ弘工^ニ其弘工或夜盜^ニ此像^ニ担負自謂^レ過^ニ數

里^ニ然但巡^ニ堂縁^ニ至^ニ天命^ニ而臥番^ニ僧見^レ之糺明

其言如^レ右依^レ之追^ニ却其盜^ニ古像置^レ之三方丈^ニ

今宝藏安置像是也

今ノ大黒ノ像者 慈眼視衆生 日乾判形^{福聚海無量}

大黒堂ノ額者 日応師御筆

当山上ノ山大黒堂檜皮屋根替嘉永六 癸丑 九月廿六
日別当大光庵 十九世志誠日照抽丹情者也薪師棟
札有^レ之

御宮殿施主

同戸帳 教有^レ之 内藤院忠山日進居士 明和五戊子十月廿四日
大黒堂ノ屋根箱棟ニモ此ノ教有^レ之

身延山諸堂記外（北沢）

〔1〕三光堂三間半四方外縁

往古在_下祖師堂与_三位牌堂_二間_上ノ山_上安_三置_ス千

仏_二奠師代寛文五乙巳年從_三甲府宰相綱重卿_一

三光尊像造立時千仏撰_三入丈六堂_一此堂_二号_三三

光堂_二引_三移_今地_一

三光天子ノ尊像者寛文五乙巳年十月十五日為_二御

子_一孫繁榮_一從_二甲府宰相綱重卿_一御造立也_一

綱重卿者大猷院殿御次男征夷將軍家宣公_一御実父

也三十三年忌為_三征夷將軍_一歷代_一贈官_一号_三清揚院

殿贈正二位内府公_一

綱重卿御奉納妙経_一全部箱_二入_一

三光七面宝前卓囲俗_二云_一打敷御寄進有_レ之_一

〔2〕奠師棟札 寛文五乙巳年九月吉日 日奠_一形_一

〔註〕

〔1〕下ノ百廿四、百卅八_一押紙_一・朱字_一

〔2〕棟札_一頭註_一

一拜殿者_二兩半三間_一

第廿一世日乾師建立号_二水屋_一茶屋本屋ノ辺ニ迎_三参

詣_一衆_一所也_一

(72才)

〔1〕第廿六世日退師ノ棟札

正保三丙戌年五月十九日峯古殿摧朽故徙_二此処_一

〔2〕第廿八世日奠師ノ棟札

寛文三癸卯年九月如意珠日拜殿朽摧故新令_二再

興_一者也_一已_上又_レ經_レ年損壞故又別有_三番僧_一寮_一故

日亨代_二潰_レ之_一今無_レ之_一

金灯笼 施主加藤肥後守後室_一飯_一丸_一永_一義_一通_一宝_一

石灯笼一基 施主 甲州河内小田村住 志村_一伝_一右衛門_一

石灯笼一基 為_二女_一僧_一悦_一 施主 岩間庄初鹿島住 望月_一七_一兵衛_一内方_一

番僧寮_三間半_二三間_一

奠師代_二新造_一置_三番僧_一

三光堂ノ額者明和第三乙酉七月吉日 施主 江戸淺野_一柳中_一

〔3〕御宮殿宝曆十二壬午五月十五日四十二世日退師板本尊有之并三光堂光御宮殿再與新建立殿中一結所願成并〔大工

池上八左衛門宗久 三光堂別当坊主_一 保科重隆左衛門重督

〔註〕

〔1〕〔2〕〔3〕棟札_一頭註_一

〔1〕〔2〕金仏_一釈尊像_一

第三十世通師代延宝五丁巳年十月十五日

(72ウ)

施主從五位下京極信濃守高勝後号高勝院道監日照居士
治工江戸住田中丹波守藤原重政

為「カキ冥天院道閑日明菩提」

⁽³⁾ 明和九壬辰六月良辰再建 再興施主河西氏
当山四十五世開縁日彪御卿

三光堂別当志波日照代嘉永七甲寅年大地震而大破故二僧師ノ院代智禪院日
願以三自身志金 其余者本院再建勸化ノ集金ヲ以修復スル者也

〔註〕

(1) 三光堂ノ「下ニアリ」ノ頭註

(2) 以下二行は記入煩瑣の爲行末を示さない。

(3) 以下二項は記入煩瑣の爲行末を示さない。

〔1〕〔2〕
一常題目堂三間・三間半 井衆寮五間四方

廿九世蔭師代棟札

本願無安日養

寛文十二壬子年三月廿八日大工坂上善兵衛正次

葺屋小倉佐左衛門

中尊両仏祖師

漫荼羅 日蓮師 寛文八申孟夏下旬晦日」授与

之身延山法久庵常題目堂常住本尊

常題目堂田地施主 慈父妙成院法源日正」悲母法

泉院妙有日善子作浄室院法晴日明」妙清幻浄各

身延山諸堂記外(北沢)

靈 一家現当二世安楽」 施主甲州泉村大木四郎兵衛

嘉永七甲寅二月吉祥辰当山上ノ山法久庵常唱堂家
根」更行道椽張替砌別当智道日受依丹情蒸」功
者也」日新判 板本尊有レ之

法久庵ノ額日後師ノ筆 別当智道日受代

〔註〕

(1) 下ノ百卅二ノ押紙・朱字

(2) 此ツビキ下ニアリノ頭註

(3) 「池上善兵衛正次」と書陵部本にあり。

(4) 位牌ノ頭註

(5) 元禄十六癸未七月七日省師本尊脇書

長沢村田地六拾石除常題目堂道心者扶持料寄附主
大木四郎兵衛成妙院法経日勤与之ノ頭註

〔1〕〔2〕
一東照大権現宮三瓦五寸四方再建五尺四寸六分兩屋三間 文政年中再
十二子十一月成就

大権現御位牌從三養珠院殿「当山起立」之」大分
境地御鄭重御朱印拝受故為「報恩」日奠代立レ之

〔註〕

(1) 下ノ百廿八ノ押紙・朱字

(2) 此ノツビキ下ニアリノ頭註

身延山諸堂記外(北沢)

(74才)

〔註〕
一 妙見大菩薩宮三間半

本七面宮廿六世遍師代建立

遍師棟札「七面大明神施主当山細索等大野梅平且那等
当社建立砌化僧南延房日遠本性房

建日「寛永十三丙子造立大工池上新之丞宗信」
録日「八月二十五日」

廿八世奠師本願引移西谷榎林於上ノ山二者立三

妙見宮一云

日亨代改為二妙見宮一奠師本願也二七面宮所レ

有レ之妙見宮無レ之故也為レ宜三參詣二前地一引レ之

妙見像 奠師開光

宮殿 施主方丈院頭瑞光院日貞 日亨代

石灯笼一基 施主甲州小田村
志村伝右衛門

〔註〕

(1) 二ノ百九十一(押紙・朱字)

〔1〕〔2〕
一 水屋庵棟水庵法明坊

貞享年中正山始レ之

次ニ庵造立ハ宗甫 次ニ修復道意二五代報命坊日

長享保八癸卯九月八日 掃部板本尊有レ
改造住持水庵報命坊日長

(75ウ)

(75才)

〔註〕

(1) 下ノ百卅三(押紙・朱字)

(2) 此ツキ下ニ(頭註)

〔1〕
一 奥院祖師堂六間四方外縁同拜殿七間半

第廿四世要師代加賀母堂「壽福院花岳日栄大姉建

立也 五重塔亦此大姉之」建立也 依レ之每月六

日於三宝蔵二自我偈誦レ之回向一

第廿九世莚師代「征夷大將軍家綱公号殿有院殿御台

所伏見院

法号 此方 円明院殿天真日孝尊儀 再建立也

位牌有レ之依レ之每月五日於三宝蔵二自我偈誦レ之

回向有レ之

祖師ノ像中老法師ノ作

寛永十三次丙子五月十三日衣更天仏師康亨ト御持経ニ有之 日遠師鑑

享保五子九月衣更京大仏師法眼康麩子伊藤勝之丞廿五才ノ時「河原町本心

坊ニ而相勸六老僧妙日妙蓮尊儀以上九鉢 日裕判形

妙日妙蓮ノ両尊像天和二壬戌四月十九日 日脱判形
施主甲州曲輪田内藤七郎右衛門法号法林

六老僧ノ像延宝八庚申九月十三日 日脱判形
施主妙覚律師日淨

三具足寛文八年庚申 施主文院道祐日録

天蓋貞享二丑九月十三日脱判形 功德主藤原氏安信 同守信

法号長寿院妙延日久 肝煎遷性院妙勝日録 蓮久院長悅日啓

金灯籠元禄十六未七月二十八日 施主武州戸呂坂本二丁 楳左衛門源藏

久兵衛没右衛門

金香盤

寿量院常香盤

右別鑄三銅盤 写其銘 以寄進於身延山

寛文十年庚戌 四月日 施主北沢

寿量院者所祭亡妻建部氏之室而其地在淺草幸
竜寺中覚林院建部氏名胤丹州牧政長妻女也生
而敏十有四嫁於我其在我家貞静不怠異
姑之奉養日待其側助我定省常使舅姑悦其
婦寧則孝于其父母仁慈温孝能愛人婢妾皆
懷其德乎日好学博覽經史時習三言行凡家
事之伋偶有風月之興賦詩詠歌或彈箏成レ
趣操毫学昔皆得自然之妙其性強記而過目
不忘謙然而不問敢不答故外内無知其多芸
我常私惜不生為丈夫也然我自恃生子似

身延山諸堂記外(北沢)

母則聰明矣不幸而未有子嗚呼寛文八年戊申

冬臥病我驚怖招医治療二方不驗及三臘十有

一日忽焉棄家而逝年二十二嗚呼哀哉此日何

日乎我不堪哭慟心胸如裂其葬祭欲以我

礼時俗難變遂葬於幸竜寺之西南隅嗚呼哀哉

不幸短命也呼可後我者而先我乎彼不幸不

可得言矣我不幸亦不可得言矣嗚呼天命也

我惜其才德之不溥而欲刻石又有時俗之

難為者故作三銅盤為三常香盤作之銘以

溥不朽銘曰

嗚呼亡妻 其性温良 慈仁有レ孝 貞順常有

典籍稽レ古 風雅成レ章 哀哉痛哉 白雲隔レ鄉

花落二空慢一 月入三孤牀一 雙鶴為レ雙 鷓鴣失レ行

吁何先レ我 使我悲傷 寐則迷レ夢 寤則斷レ腸

一爐揚レ蕪 千歲流レ芳 縱然短生 永名無レ疆

石灯籠二基寛文五己年九月十三日

為法界造立之願主武州小石川新藤匠可

此灯籠地震破損今灯籠者施主大塩村佐藤十郎兵衛再興

身延山諸堂記外（北沢）

〔註〕

- (1) 下ノ百廿一、同百卅七（押紙・朱字）
- (2) 「潤」を「潤」と訂正あり。
- (3) 「聡敏」と書陵部本にあり。
- (4) 「暇」と書陵部本にあり。

〔1〕 二王門一丈六尺五間半

是往古本堂前有之^レ二王像安置此門^ニ相州六
 浦平次郎入道妙法禪門寄進也^レ退師代三門建立
 時此二王移三門^ニ執金^ニ剛神也本堂前二天門改
 造時古門移^ニ奥院^ニ

今ノ二王ノ像者 脱師開光^②施主妙覚院律師日淨
 尊師昌福寺十三世
 思親閣ノ額者 四十五世日応師ノ筆

〔註〕

- (1) 「天」を「王」と訂正。
- (2) 「妙覚律師」と書陵部本にあり。

一 椎鐘堂二間一尺四方

鐘首題 廿九世日蓮判形

甲州身延山奥院棟樑

洪鐘震^レ郷音覺^ニ群迷^ニ声遍^ニ十方無量土

(78ウ)

含識群生普聞知^① 披^ニ除^ス衆生長夜苦^ニ
 六識常昏終夜苦^② 無明被^レ覆久迷情
 晝夜聞^レ鐘開覺悟^③ 恰^ニ神淨利^ニ得^ニ神通^④
 寛文第八竜集^⑤申^ニ中^ニ應鐘如意日^⑥
 治工甲州府中住沼上四郎右衛門吉加^⑦
 施主勸受院日順 渋谷又右衛門淨林日清^⑧

同平兵衛真乘日正 横関与兵衛蓮盛日覚^⑨
 五味四郎右衛門了達日是^⑩

鐘堂板本尊

延宝五丁巳年十月上旬九日 日通判形

智証院淨林日清

本願 実教院真乘日正

玄地院蓮盛日覚

河内福土村望月佐左衛門法善日億

助願主 中郡淺原五味七左衛門宗隆日恰

河内加島庄望月与右衛門妻妙秀日心

身延大工棟梁坂上善兵衛宗次

一 別当寮四間七間

本番僧無^レ之廿八世日眞師代新立^ニ寮置^ニ番僧^①
 三十二世日省師代ニ悉ク改造ス^②元禄十六癸未年

(78オ)

(79オ)

也」

一籠屋二間四間」

古別當寮也元禄十六癸未年引之修復」

①御供所二間半 五十八代環師代建立」

施主下山村中」

御供所ノ額者五十八代環師代右環師ノ筆」

唐金宝塔一基高サ五尺五寸 天明二癸亥十月 施主大坂本間野兵衛」

(79ウ)

(80オ)

往古者奥院諸堂在ニ本堂祖師堂近処一狹隘一羅列見分不レ宜又奥院道峻難一難レ通」廿八世奠師代執事僧堯達日精号ニ内正院」西谷内正房開基也於山大叡功有又有「學徳」故日亭代贈ニ聖人号ニ与ニ貫首一相議大開ニ諸一所平ニ峻地移ニ諸堂又開ニ奥院路一広レ之ニ平レ之令レ易レ往還又從ニ三光堂辺一至ニ水」屋上ニ多是他領也水屋上山是下山領也」計策（2）

身延山諸堂記外（北沢）

奥院祖師堂家根土瓦葺替嘉永六癸丑九月薪師代時別」当智玄院日是 施主結衆満山中國內信者中瓦師伊沼村住人」望月作兵衛 普請奉行智報院日是顯智院日勢 棟札有レ之」
別當所孝東院嘉永七甲寅大地震而皆潰故廢師代別當智報院日如丹精ノ再建成并 安政二乙卯年十月吉辰

〔註〕

- ① ツゞキ下ニアリ（頭註）
- ② 「木」を「樹」と訂正。

西谷通

七面山 詣」

①朝師堂四間半 宝永元甲申十一月廿五日」
省師棟札」

朝師御木像者五十八歳之繪像之御影ヲ奉レテ明応第四乙卯五月日」作者備中甚願一糸乃丸願主日恒修職務日源ト御像ニ有レ之明応」四年乙卯者御存生七十四歳之御時也」明応九庚申六月廿五日七十九歳遷化也」

東谷覺林房朝師開基隱居入滅地 故」卅二世日省師代十七世玄理院日儀在任之節勸化建ニ立之」祈ニ眼病一有ニ靈驗」諸國開レ之信敬日篤」

日朝尊者三百五十遠忌報恩修行
嘉永二己酉六月廿五日朝師代林房」朝師堂家根皮葺更成就之砌 三千一世智妙院日弘板本尊有之」

延享四丁卯七月七日下ノ房ヨリ出火之節
玄理院日儀建立ノ朝師堂類焼致ス

身延山諸堂記外（北沢）

又再建立善翁院日養代」

〔註〕

- (1) 二ノ百九十（押紙・朱字）
- (2) 朝師堂額ハ潮師ノ筆 焼失（頭註）
- (3) 此ノツドキニノ卷ニアリ（頭註）

一西谷檀林善学院」

第十四世善学院日鏡師隱居所也永祿二己未」年四月廿五日五十三歳遷化至正徳二壬辰百五十四年」

第廿二世日遠師慶長九甲辰年改為「学校」講ニ」文句ニ是故以ニ遠師ニ為ニ檀林開祖ニ至ニ正徳二」壬辰年一百九十年也談林七世智性院日遷寛永廿」癸未年十月廿四日遷化後絶講二十余年也

第廿一六世日通師隱居此院遷化

第廿八世日奠師」雖レ有談林再興願」未レ果遷化

第廿九世日蓮師時再興興源院日遠為」第八世」講ニ文句ニ寛文八戊申年也至三四十五年一也」

講堂者寛文九己酉年興源院代江府安藤菴」岐守重常為ニ慈父伊賀守」考 蓮行院道」円日覺居士追薦一喜捨黄金一千兩」建ニ立之」

(81オ)

(81ウ)

(82オ)

往古方丈講堂有レ之歟天文十四年乙巳歳伝」師代御頭帳講堂令レ修ニ理之」云云」

第三十二世省師代談林化主廿五世觀如院日透」代元祿十五壬午年十月廿三日為ニ永聖跡」

一講堂九間七間半 廿九世遷師檀札」

一化主寮七間半ニ五間」

一廊下四間ニ三間」

一庫裏八間六間 再建立四十一世妙師棟札庫裏ノ棟札ナリ」

一廊下四間ニ二間」

一食堂四間ニ五間」

一鎮守社三間四方 鎮守三社三間半（慶応元乙丑五月吉辰上棟七十世禪師棟札再建立」

一妙女庵 十二間半ニ五間半 卅三世守師棟札」
玄菟講釈ノ寮授ノ庵号」

日亨代借ニ戒善房屋敷」再ニ建之」

上中座、寮井所化寮長屋寮或在談林地内、或境内
狭故借地中地所々造レ之、

一惣門二間二尺同額(辨檀林 潮師ノ筆 三大学)

同通路 遠師百回忌供養開レ之、

日潮師代』寛保元辛酉年也、

一一切経蔵二間四方

一椎鐘堂二間四方

辰師棟札 辰師鐘銘 安永九庚子十一月吉日施主甲州鏡
中条村」正行院日欽聖人同願御免大工職物師」初沢住

沼上飯藏藤原吉秀子息源治郎作」堂棟札日求筆青柳昌初寺長遠院門弟
中」

〔註〕

(一) 此ノ鐘堂明治廿年焼失故ニ鐘ハ内船内船寺江送之
同年ナリハ頭註・朱字、

一土蔵三間

一浴室三間

檀林歴代、

初祖心性院日遠 二祖慧眼院日祝、

身延山諸堂記外(北沢)

三智寂院日豪 四祖禪那院日忠

五祖禪智院日立 六祖僧那院日豊

七祖智性院日遷 八祖興源院日遼

九 本源院日然 十 隆善院日慶

十一 養真院日住 十二 情存院日妙

十三 本如院日順 十四 大中院日孝

十五 宝聚院日城 十六 智光院日速

十七 乘妙院日遑 十八 中道院日秀

十九 大懃院日解 廿 隆性院日永

廿一 常唱院日迅 廿二 本妙院日亮

廿三 觀理院日義 廿四 本成院日有

廿五 觀如院日透 廿六 承円院日念

廿七 十如院日諦 廿八 相応院日実

廿九 太寿院日量 三十 空如院日信

卅一 玄取院日義 卅二 隆存院日迨

卅三 本禅院日述 卅四 遑漸院日正

卅五 修学院日道 卅六 即真院日在

善学院永聖跡御免元禄十五年十月廿三日 日名師代
文化主第二十五世觀如院日透代

善学院永紋白着用文政四辛巳年十一月日 日通師代
是ハ退院後ノ時ナリ 化主百五十六世開顯院日誠

同院講釈中緋紋白御免天保八丁酉年六月日 日酒師代
化主百七十六世潮学院日喜代

身延山諸堂記外（北沢）

妙玄庵永聖免許事保正西五月二十二日 日修師代

明治維新ニ付西谷檀林ヲ改テ身延檀林トス明治七

年甲戌十一月廿二日

明治八乙亥年一月檀林ヲ廢シテ久遠寺屬善學院ト

スル

〔註〕

（一）終へ頭註・朱字

（84オ）

一常経堂五間四方九尺四尺衆寮二間ニ六間半」廊下二間四方食堂

四間半五間

棟札諸尊開限等無レ之

過去帳 日蓮師形」寛文十庚戌四月廿四日本願主

太心院日悟」真通院日解」深信日慧」

一廟番僧寮妙福庵 通師ノ代ニ改テ妙福房トス

奉行僧親般房日壽日壽大工棟梁池上藤兵衛宗道

往古雖レ有レ之巧壊故

日亭自分志宝永八辛卯」春開レ地為レ避レ河水ニ以レ

石築レ之ニ式新建ニ立レ之

仏壇間并座敷 庫裏并番僧部屋ニ所門井」造レ之

（85ウ）

（85オ）

此側為ニ日亭廟所ト逆修石塔祠堂金」収レ之永代此
番僧掃除回向不レ可ニ疎略ニ之旨可ニ申渡」也」
半鐘」

一収骨堂四間ニ三間

棟札無レ之大工坂上宮内立レ之

祖師像武州江戸幸庵寺正光院日修師形長十七至三月日 日修師形

積尊ノ像坐像也

一犬ノ塔

小室日伝聖人帰伏ノ因縁詳シ諸人口碑ニ其塔婆」之
残木在ニ宝蔵」

一積迎堂方九尺 通師代見師代

此ノ処ハ祖師当山最初御建立十間四面ノ堂地也」

九箇年説誦説法書写本尊著述諸書ノ靈」地也亭師

ノ云ク從ニ往古為ニ真俗葬送場ニ山地狭少」別」無ニ

広地ニ故歎仰願後代貫主此処為ニ清浄」ノ靈地ニ立ニ

四方境ニ葬場別可レ設レ之

積尊 裏書高祖大菩薩已來大檀越太」田新六郎
号法

覺林院日宗、息女井上筑後守妻「法浩妙院法真奉、造立之、寄進以祈三世勝利之矣」寛永十七庚辰三月十九日誌 日暹判形

棟札 通師 延宝四丙辰 十月吉祥日齋前堂常住「造立施主当町九日講中 大工池上九郎兵衛宗次」板本尊 見師 宝曆十三癸未 十二月十五日釈迦堂再「營寄附之面々当寺中門前真俗貴賤現安後善」

〔註〕

- (1) 下ノ百卅六ハ押紙・朱字
- (2) 此ツギキ下ニ有リハ頭註
- (3) 「二間四方」を「方九尺」と訂正。
- (4) 御卿庵ノ旧跡ノ玉垣造立ハ第三ノ卷ニ有之ハ頭註

① 一祖師廟堂二間半同拜殿三間半廊下」

第十七世日新師代建立」

棟札天平三丙日新判形 裏書ニ右八角堂建立ハ」

去年仲冬也料從大坊材木少く助成番匠之儀」子悉奉加也 大工池上新之丞上蓮」

又日遠師ノ棟札ニ慶長十一丙午 三月日祖師聖人石

身延山諸堂記外(北沢)

廟「從三堂地上三奉移此塔頭靈地」以次修三理八角堂者也上」日亨為防三雨濕ニ悉為三油丹塗」

石廟ノ妙法蓮華經ハ相伝フ向師ノ筆ト」

古来以凡人骨収此所ニ汗穢不淨也日亨代禁之凡人骨可送収骨堂永代レ可破此式」

覺林房、歴代一行院日俊為令法久住祖恩報「謝収無尽財、永代毎日於廟前一令誦誦妙典」一部、其志深重也永々簡鄭重誦誦人令勤レ之不可退転」

拜殿 廿二世日遠師ノ棟札 彙祖御廟之拜殿為三円惺院日信台靈出離得脱、新造立之者也」慶長十八癸丑 南呂ナリ如意殊日為三安泰守護、奉」因写之畢 功德主前住沙門心性院日遠判形」

円惺院日信者厨子建立、本願加治左馬助也」御廟一式立替 松木祖像移レ之」延享元甲子 正月

三十六世日潮師代」

祖師尊像ハ九老日像菩薩御作」

本化上行日蓮大菩薩身延八角堂本尊是影者」花落日像ササ作寛保四年甲子之尊 三十三世日潮判形

身延山諸堂記外（北沢）

〔註〕

(1) 此ノ統キニノ卷ニアリ（頭註）

※ 87・88丁の丁付をとばしている。

一阿仏房日得聖人ノ塔」

佐渡阿仏房妙泉寺開基俗名藤左衛門尉為盛」順徳院北面侍也順徳院於三佐州一崩御後出家一弔レ之千日尼御前此妻女也其子藤九郎盛綱」出家云三佐渡阿闍梨日滿」妙泉寺第二世也」阿仏房并千日尼婦三伏宗祖一如三祖書一日得」弘安二己卯年三月廿一日卒此年七月二日其子」盛綱詣三身延山一収三日得骨一弘安三庚辰年」七月一日又登三身延山一拜三父墓」録内三十一卅丁分明也」又録内十八廿ニ中興入道消息云去ヌル幻子ノ娘メ御前ノ」十三年ニ六丈ニ卒都婆立テ」其ノ面テニ南無妙法蓮」華経ノ七字ヲ顯ス是亦身延山歟文不三分明云」

一田代高座石ノ祖師堂三間半ニ三間庵三間半ニ八間号三妙石」三三尺ノ庵

日享代宝永三丙戌年十月十三日江戸講中新建立根札有之一奉行僧觀

静房日諦大工棟梁池上宮内宗次」

金像ノ祖師ハ初ハ安西醫院後ニ移ス此堂」

(90ウ)

宮殿ハ本在祖師堂十三世伝師代天文乙巳年酉ノ月日祐日享代大徳房日守等造大工池上稱殿允正五宝永五戊子年宮殿改造後古宮殿移三此」堂一從三江戸講中一出一金子十兩一成三古宮殿施主」

六老僧塔在ニ此所」

窮年学禅院日逢勸三道俗与三錢窮民」令レ捨レ石

畫ニ写妙経一収ニ此処一起三石塔」

卅二世日省師元禄十三庚辰年正月十三日夫高座石発頭使三諸人帰敬」

開基者山本坊十八世学禅院日逢 妙石庵造」立主法蓮

求レ令レ捨ニ世財、当房永代相統」願主」了達予感三心

之、授ニ与本尊一者也」

字師 身延山高座石祖師堂新建立主江戸一結構中本願主学禅院日逢檀檀人存生殆起宮檢者在古大室ニ有之改造之後移此堂經時宝永三丙戌年十月十三日奉行僧觀静房日諦大工棟梁身延門前池上宮内宗次」

〔註〕

(1) 下ノ百十五へ押紙・朱字

(2) 此ノ統下ニアリ（頭註）

一松之木息ミノ寮 号松樹庵」

宝永元 甲申年建立」

(90オ)

(89ウ)

厨子者同五戊子年建立 日亨棟札授与之
宗祖像者從三越後本覺寺奉寫之光日日照
祖師堂 正徳二壬辰四月建立四坊

江戸芝田町八丁目近久右衛門
近沢七右衛門

〔追分ノ寮 号「盛井坊」〕

脱師棟札元禄六癸酉四月七日道智庵日立智円日惠授与之

井水者貞享四丁卯年三月十九日午刻依之 祖師明神

夢相涌出歎此処無水ニ数年願求靈感也

半鐘 江戸講中 宗信代

祖師像 宝永六己丑年八月本願江戸紙屋治兵衛
并講中宗信代

此統キ下ニ有り

〔註〕

(1) 下ノ百〇七へ抑紙・朱字

(2) ツドキ下ニアリへ頭註

一十万部 日亨棟札授与之臨山日正

本堂 元禄十丁丑年臨山建立之堂祖師ノ像懸安置故是

祖師堂 宝永六己丑年臨山建立之

身延山諸堂記外(北沢)

宗旨建立ノ祖師立像江戸編中遊立人衆間板列之

小繩村万部寺寛文四甲辰年寺再建立五代法利代法利建立此

ノ建立ノ前凡ソ六十年小庵有レ之正徳年中ニ至

ルマテ凡ソ百年余始メ造立ハ慶長元和ノ頃也

一 法久日塔 二 久応日休 三 久 四 法久日安 五

法利日明 六 円長日榮 七 宗蓮房日祐 八 陽山日

正

一 赤沢ノ妙福寺

巨麻郡西河内領長徳山妙福寺建立ヨリ至正徳年

中一凡ソ三百余年ト云

開基西之房 二 山之房 三 本明房 四 正学律師

五 法藏房日照 六 善行房 七 本性房 八 性善房

九 円融房 十 寂仙房 十一 瑞泉房日寿

古堂建立長禄二年戊寅年
六月二十九日日学判形山之房代正徳二壬辰年
三月二十五日

古寺建立慶長十八癸丑年要師本尊有レ之

堂建立正徳四丁亥年日遷判形造 立本願榮伝日如并 赤

沢村諸且那中高住村望月八郎右衛門了甫大工池

上 五左衛門

半鐘 江戸本郷久志田氏法号不樂院宗祐日淨
加十一世瑞泉房日野代

身延山諸堂記外（北沢）

(93才)

庫裏 五間ニ八間 正徳三癸巳年 瑞泉院日輝代立之

〔註〕

- (1) 「本」を「之」と訂正。
- (2) 「妙」を「明」と訂正。

一 神力房

境内四畝廿七步除地正徳二壬辰年迄百廿七年也」
 開基法意十三年在任一間二小屋立之 二代徳
 順十五六年五盛 三代法榮卅五年作三間四間庵故」
 為開山 四代法源日流廿七年代学禪院日逢以三七
 面社古材木造三間四間堂奉安置三三神明」
 通師ノ棟札有之 五代妙法房十五年 六代宗順五年
 七代法玄六年半鐘施主西郡南胡村安藤三三右衛門」 八代
 淨円六年 九代宗信二年 十代神力房立三五間」 七間
 寺宝永三丙戌年日享授三与板本尊一名三神」 力坊
 材木ノ施主ハ赤沢村中扶持方等ノ施主西郡」 筋西
 南胡村安藤十郎兵衛同苗佐五右衛門」

一 蓮華房

(94才)

一 籠ノ一ノ鳥居 赤沢村中立之 破壊ニ付キ又タ」

唐金ノ鳥居」

木ノ鳥居」

摩尼珠嶺ノ額」

一ノ鳥居ヨリ御本社迄道程五十丁登リ壺丁メ々々
 正石灯」籠立之、丁目々々ヲ記ル施主之姓名モ皆
 灯笼ニ有之」

一 北麓ノ神通坊

從開基至正徳年中二百十余年
 開基慈性坊」廿八年在立三間四間庵 二代宗榮卅八
 年 三代」 蓮光卅五年山中立三二間四方休所 通師板
 本尊」 脱師本尊有之 四代法榮七年作四間六間
 寺」 五代神通房正徳三壬辰年マテ 此代宝永三丙戌年」
 日享授三与板本尊一名三神通房」

從麓上山中町石并從麓至山中一本土知処」二
 十町余所兩脇一間通作場之内從高住村一買取一
 植三並木一令易登山此ノ施主飯富村古屋弥治右
 衛門」

麓ノ鳥居 施主河内大塩村中永代可立之約諾也」

(95才)

(94ウ)

一土知之木安住房」

一肝心房 天明七丁未六月廿一日
開基肝心院自行墾入

一中ノ茶屋 号ニ中酒房

(95ウ)

從、開基ニ至三正徳二壬辰年一七十年余也

開基慈」心房八年住立休所、作ニ山道」二代法善房

從、北」方二取ニ樋水」三三代法善八年作ニ三間三間、

應、」四代宗久十五年 五代蓮久十二年 六代蓮心六年

從、」西方二取ニ樋水」七代立心作、三間五間、庵、授、

棟札、」八代法久至三正徳二壬辰年一八年住ス」九代蓮信日

回 享保十三戊申
三月十九日去

一晴雲房 開基善心日修 文化元甲子九月十九日
盛節ヨリ本尊ヲ授ク

(96オ)

一赤沢村春氣川ノ万年橋 文政三庚辰年十一月新ニ万年
橋ヲ掛ル

一同峙ノ宗説房 七面山道橋音請
為ニ金所、建、森 本願発起唯宣宗説日経靈

当座榮願主
文化七庚辰九月四日去

初祖妙宣日輝信尼 天保十一庚子 父宗親依心願初八而成尼、坊建
五月十九日去 在坊三十余年四十一歲天神中衆

立長沢氏産」蓮華坊日信法師 道橋音請発起人
文化十二乙亥六月廿八日去

身延山踏堂記外(北沢)

(96ウ)

七面山

一明神本宮 三間半ニ四間 再建四間

一幣殿 二間半ニ二間 同 三間

一拝殿 六間ニ四間 同 七間半

一廊 下ニ二間ニ四間
二通り有之同

一御供屋 三間四方 同三間

一庫裏 六間半ニ八間半 再建九間半

一池太神宮 七尺ニ一間 同三間半

一随門 身ニ二間半ニ三間半

一鐘堂 九尺四方

一客寮 再建十間

一籠屋 二宇 同 十二間半

(97オ)

右一式第三十世通師代建立通師本尊宮殿」之内張、
有之七面社造宮遷座之時収之延宝」三乙卯年八
月上旬八日 日通判形 此時執事 山本房」学禪院日逢

巡、甲駿兩國、一勅ニ化道俗、」

卅三世日亨代ニ七面山別当修善院日得勸化ノ金」

柱惣彩色金張附給天井金物惣雨覆雨戸」玉垣池之

端井門水溜之井惣門等或建立之、」或修飾之、

身延山諸堂記外（北沢）

為^{ユレヒコノカ}防^シ雨^シ濕^シ悉^シ以^テ油^ヲ丹^ヲ塗^レ之^ニ

七面ノ尊像方治三年十月吉日 身延山廿八世日奠^リ判^ル形^ノ」施主京布袋屋世田市左深田院妙願日成

衛門」

四天王 日廻^リ判^ル形^ノ」施主本阿弥市郎兵衛」

宮殿内宝蓋延宝三甲寅年卯月九日」施主惣題目^{トクメ}構^ケ中^ニ」

天蓋 施主不知」

花瓶一对元禄乙亥年二月十九日 施主奥州南部和賀郡出瀧久左衛門尉房種

金地大水引 施主水戸黄門光國」

幡一雙 并鏡一面宝永四丁亥八月日亨判形」施主江戸了蔵

院妙乘日運取次最教寺」

小幡一雙宝永七庚寅六月吉日 宝永六郎千之助政久九歳祈禱」

小幡一雙宝永松平二十郎祈禱」

幡一雙 宝永三 丙戌 年四月 日亨判形」

幡一雙 宝永二 乙酉 九月十九日 与石順安」

幡一雙 施主不知」

鐘 仙石越前守政明室普考清耀院円珠日淨」

同堂富主郡大宮村渋谷又左衛門同平兵衛横関与兵衛」

隨身像二体 日通判形」施主中川佐渡守久恒奥方」

法号長寿院妙応日慶」

隨身門甲州小川原住人内藤氏 道榮 妙証院法忍日行

(98ウ)

(98オ)

(97ウ)

惣門 赤沢講中」

三具足 江戸浅草御蔵前大坂屋与兵衛」

金灯笼 同御蔵前布利女」

机十一脚願主尊通院日忍 江戸芝金杉三丁目大坂屋次郎兵衛」

鑿泉州高瀬忠左衛門」

金柱ノ箔本願古市場大久保助右衛門已上十二人」

常灯明灯籠 并台 江戸牛込修行院」

半鐘尾州名古屋 榎井」

金鉢泉州高瀬忠右衛門」

時計本願江戸日本橋方町大坂屋茂兵衛半兵衛久次郎 二十三入」

大鏡本願江戸金子新左衛門宗門 一結納」

玉垣長崎大之町宮崎清助」

石灯笼二基飯沢寄加子治右衛門 身延頭竹之助」

水屋北山筋西八幡村久兵衛」

鳥居永代施主西花輪村飯村兵蔵」

船黒沢村中 初鹿島村中」

神前柱十四本 赤沢村中」

籠屋二箇二四間飯沢村中」

籠屋二箇二七間黒沢村中」

供養物」

(99ウ)

(99オ)

蠟燭每年百挺京當時蠟屋町篠田次郎左衛門

金子卅兩蠟燭料収之江戸講中

灯明油 岩間村竹川金左衛門」

抹香 粟倉村遠藤与左衛門」

御供料每年金子壹兩 泉村大木佐太夫」

御供米每年金壹步 赤沢村

祭ノ餅米一俵 浅原村五味七郎右衛門

煎茶一本 長貫村佐野藤兵衛

同 西山村野月半太夫

同 佐野源右衛門同市郎左衛門」

御供料金三十兩 身延門前金左衛門」

九月祭礼酒之施主後原村五味四郎右衛門五俵

同 加藤平右衛門 四俵」

同 五味源五右衛門壹俵」

会式酒之施主 四俵鏡中条村又右衛門三人

極月酒之施主 二俵吉市場村大久保助市

同 宍俵大久保六右衛門

同 宍俵大久保仁右衛門」

同 宍俵半十郎 二俵黒沢井上吉之丞

同 七面大明神御額拜殿

身延山諸堂記外(北沢)



前宝鏡寺宮様御筆本覚院宮内池田監物丞状有之享保二十年范在

世話城州山羽実相寺日教師之ナリ」

七面大明神御額隨身ノ額ナリ

奉納甲州身延山七面大明神額

抵政岡白屋司房福公染翰

奉願主被遠院日通上人

享延室第七己未歲九月十九日

檀越中川佐茂守久恒思女察号法清耀院円珠日淨信女敬造

鑄工武州江戸住田中丹波守藤原直政作」

宝珠殿ノ額賜紫日酒師ノ筆別當智性院日蓮代額面願主安政六己未九月十九日実師代別當智厚院日容代彫刻ノ奉掛拜殿」

〔註〕

(一) 下ノ一〇八ノ抑紙・朱字

七面山鐘銘等之写

甲州七面山鐘銘并叙

延降ウツコトシ西蔚乎者深秀者七面山也山之東面平坦」之処

自然湖水湛然者七面池也池竟曾化」人來聽ニ受

吾祖之法ニ矣所謂七面之神也神誓ニ擁ニ護延降之伽

藍ニ防ニ于火災一福ニ于人民一抵レ今一四百載湖水不レ

涸無ニ回祿之災一其靈蹟昭昭焉」寧曰ニ神之非ニ正



身延山諸堂記外（北沢）

(101ウ)

直乎嗚呼古老之言筆墨之「伝不誣而已矣自」古
神之廟堂狹隘而浸及三「毀廢」矣甲寅之歲以二十方
奈施「再興」修營「則神廟拜殿樓門等凡所宜」有
咸皆新「成焉朝散大夫久恒女捨」若干貲「修造樓
鐘」於「是乎七面之山輪奐」尽「美矣神其無」享「
乎以勤」神之德於鐘「而為」之銘「銘曰」

日東延嶽

月支鷲峰

本光呈端

発揮妙宗

竜池之山

隣于靈蹤

嵯峨七面

青螺万重

澄潭一碧

神之幽宮

水接阿耨

德亞三善竜

初祖揮塵

靈物景從

倏運弘願

巨擲奸兇

翼々靈宇

維德所鍾

修造瓊殿

鑄鍍金鐘

無明銅鉄

妙觀冶融

時成宝器

円満玲瓏

聖心如響

機感如撞

天堂忽現

幽府俄空

一音徧滿

十界雷同

願言檀信

爵祿無窮

子孫繁衍

神理交通

遠近妙道

普扇三祖風

真俗竝盛

文武四充

天長地久

国泰民豊

延宝三載乙卯中春吉辰

総州法輪講寺比丘慈忍誌

檀越朝散大夫越州刺史政明内室法号清耀

院円珠日淨信女

(102オ)

(102ウ)

(103オ)

甲州巨麻郡 七面山神祠修營跡
神也立_レ誓者_三焉所謂防_三于火福_三于民一避于甲
兵而今既_レ四百載其靈蹟昭昭焉若其神之本迹之
為_二綠起_一者墨痕所_レ蔽口碑所_レ伝草章焉今並
不_レ記自_レ古神殿朴質且狹隘亦及_二乎毀廢也
頃者縑素_一之心勤_二因修營_一矣蓋_二神德不思議
所_レ費雖_レ多而工價總存焉有_二一檀信_一語_レ余曰
蓋_レ下_レ裁_二募緣之言_一顯_二揚神_一德敢俾_下天下之人
植_中其善利_一乎余然_二斯言_一於_レ此乎書_レ
延宝三年乙卯孟春

(103ウ)

七面山神祠記(カミノホコラノキ)
七面神侍_三祖之側_一聽_レ講等之事古老所_レ伝也未_レ
見古記_一唯_レ六老僧記祖師口_レ伝之中曰_レ及_レ講_二提婆
品_一蛇來聽聞云云雖_レ然誰知是_レ七面之竜也故但以_レ
曰_二古老所_レ伝_一可_レ為_レ允_レ耳中古_二兩畑土人_一到_二七面
山之隣_一隣_二狷焉偶_一憩_二一処_一有_レ物似_二佛像_一甚古
長_二二寸余持_一還_レ家至_レ晚_一舍皆受_二疫疾_一其村有_二
身延山諸堂記外(北沢)

(104オ)

一信_一士奉_レ像安_二置吾家_一家又受_二疫疾_一唯家主_一
無_レ故白_レ像言吾常_三以_二潔淨_一修_レ身_一齊_二家_一神何故
為_レ崇_二像託_一夢曰吾不_レ喜_レ在_二俗_一家_一但欲_レ還_二
旧栖_一唯焉神告曰至_二九月十一_一九日_二登_二涉_一七面山_一
其東面有_レ池池畔_二建_レ祠_一安_二置吾像_一吾但_レ為_レ
欲_二此事_一而已_レ覺_レ則八月_一廿六夜也而此山峻險自_レ
古未_レ有_二登陟_一者待_レ至_二九月十九日_一乃_レ攀_二蒙
茸_一上_二三山頂_一果有_二一池_一遂_レ於_二池畔_一立_二小祠_一稱_二
池大神_一威靈日_レ新_レ至_レ今天下_二九月十九日_一以為_二七
面祭_一者_一以_二此因緣_一故也於_レ是_一宗_二真俗_一潔_レ身_一
禱_二爾_一無_レ不_レ應_レ求_二國人_一登陟_二賽_二于_一神_一者不_レ可_二
勝_一數_一以_レ故_二錢物_一日為_二積聚_一于時雨畑土人受_二用神
錢_一赤沢村在_二七面山麓_一土人曰_二七面者赤沢之山
也_一宜_二以_二錢物_一自_二赤沢_一受_二用_二焉_一雨畑土人不_レ可_二
爭_一執_一不_レ息者十九年時有_二雨畑僧_一仙林房高住僧_一
一心房者二人相議曰所謂_二七面受_一三法_一於_レ吾祖_一焉
然則神者吾家之檀越也宜_二以_二神_一錢_一為_二中_一延山_一之
物_一上_二雨畑_一可_レ而聽焉然且兩村_一猶_レ爭_二山_一未_レ止_二遂_一及_二
公評_一平岡勘三郎_一者為_二甲州吏_一判斷曰自_二山上_一

(104ウ)

身延山諸堂記外(北沢)

身延山諸堂記外（北沢）

七分可レ為三神一之地ト始既以三神錢、為三延降物、以、故山亦、自然為三延降之所領、云初神賞罰甚烈、固、人受レ罰者多矣、延降、要師造三立釈迦坐、像、神於華台中、藏、白レ神言、濁末利生、唯可下以三柔和、為本、何以三烈威、之為、於、是神崇、頗息焉、近歲受三其利沢、者、不レ計三其數、七面事迹世、稀三識者、余録三本、説、留贈三後人ニ云、爾、

(105オ)

〔註〕

(1) 第廿四世（頭註）

池大神宮七尺二間

初勸請時未レ知、七面号、池、畔勸請故、称、池、大神、一、實是七面大明神也、今、如意輪、觀音、像安、置之、雨畑、望月、武兵衛欲下、駿、府城、猷、鷹、上、時宿、二保村、禪、寺、此住持、竊、取、池、大神、像、武兵衛、伝、三聞、之、心、念、恨、神、于、レ時、此僧、大熱狂、乱告、曰、形、雖、在、レ斯、神、靈、山、住、何、以、三凡、情、為、レ恨、平、武、兵、衛、懺、罪、祈、三、僧、正、念、一、果、僧、疾、忽、愈、武、兵、衛、又、念、神、靈、一、雖、住、レ山、若、無、像、則、無、レ便、三愚、人、生、信、一、其、時、保、一、村、適、仏、工、來、武、兵、衛、請、作、三、宜、像、于、レ時、一、与、三、如、意、輪、像、二、武、兵、衛、奉、レ、之、登、

(105ウ)

(106オ)

〔註〕

(1) ツビキ下ニアリ（頭註）

山安三置池、畔社、禪寺、僧、恐、懼、還、三初、像、二此、初、像、一、要、師、藏、三、釈、迦、像、中、一、如、意、輪、像、在、三池、大神、一、社、是、武、兵、衛、及、仏、工、未、レ、知、三神、像、故、也、一、池大神ノ額、ハ、六、六、七、世、建、師、一、並、別、当、前、藥、院、日、勝、代、

一影向石ノ社

一学禪院日達立小社、一

影向石社、并、別、当、所、宝、曆、年、間、四、二、世、辰、師、代、再、建、立、一、辰、師、碑、銘、石、有、之、八、代、郡、宮、原、村、中、再、建、丹、誠、有、之、

〔註〕

(1) 下ノ百四十、七面社七ツ（押紙・朱字）

(2) ツビキ下ニ有リ（頭註）

一波木井日円之古地、一

波木井部教円房上有レ之、

同廟所、

波木井郷教円房近所^ニ有^ルニ火葬場、地^ニ石塔近年立^レ之^リ

〔卷〕
〔印〕

以上正徳二壬辰年三十三世亨師ノ御筆跡奉写之^リ

羽衣橋（赤沢ヨリ七面山表本道ニ通スル橋也）
明治初年木造朱塗欄干附（身延太平橋ニ相似タリ）
「経費ハ七面山ノ負担ニシテ来詣者ノ応分ノ喜捨」ヲ以テ修繕ニ充ツルモ明治四十年出水ノタメ橋柱不残
「流失セリ時ニ大正十年聖誕七百年記念事業」トシテ架設ヲ企ツニ忽チニ響応スル者アリテ完成ス左ノ如シ
発願者東京森岡平右衛門大坂岩本吉右衛門
一時ノ別当小松海浄費額^{（一）} 万円
ニシテ鉄骨金土」ヲ以テ大正十年五月八日エラ起シ全十一年十一月四日竣工長サ三十四間」五尺六寸幅員十一尺四寸高サ十四間三尺ニシテ英国ナイアガラ式ニ法レリト^リ

〔註〕
（一）金額未記入。

身延山諸堂記外（北沢）

亨師後是ヨリ追加之部 妙俊日壽集之^{（一）}

〔註〕

（一）この一行、欄外上にあり。

△追分感井坊^一

裕師板本尊 享保七壬寅 二月十六日 身延山内街道追分交^ニ接庵祖

師堂 江戸淺海新寺町 遊理本願施主六人 現住桑門了玄日収^一 大工身延

池上民部宗家^一

寛師 三枚鏡本尊 寛徳元改辰 十一月中旬 身延山境内感井^一 坊常住本

尊当坊再建立主時之住持祐信坊^一 日受^一

寛師 一枚本尊 延享五年改辰 六月廿五日 身延山追分妙泉庵^一 再建立時

之住持祐信坊^一

辰師 一枚本尊 宝曆十二年改辰 九月二十日 身延山追分祖師堂^一 再建立

之願主感井坊十八世良貞日感^一

奏師 一枚本尊 文化四年卯春 正月 祖師堂再建立之砌^一 追分感

井坊常住^一

晴師 三枚鏡本尊 文政九年改辰 丙戌秋七月 当山境内追分感井^一 坊常住

本尊也先住善了日定時之住持道^一 順日恵^一

仲師 二枚鏡本尊 弘化三年改辰 三月 文政十三寅歳感井^一 坊再建

依丹情者也道順日恵太忍日勇^一 井世話人連名有

之^一

身延山諸堂記外（北沢）

(108ウ)

△七面山諸堂宇三十世通師代建立 安永五丙申十月十一日ノ夜回縁致ス 其時残者鐘堂隨身門二字也

明神本宮四方一 安永九庚子八月十九日 普請奉行 四十七世毘師御代棟札 毘之阿住円院（金戸如院）

幣殿四方一 棟梁身延池上勘解由 日通 脇 山田武三郎

幣殿三間一

拜殿七間半一 天明四甲辰六月ヨリ同乙己六月廿五日 普請奉行殿州 四十七世毘師御代棟札 拜殿成就 十世毘法妙房

岩瀧光榮寺 院神鳳日尊

御宮殿天明元辛丑年閏五月十三日始用州者中ヨリ納ル 四十七世毘師ノ時也 時ノ当別大行院日尊

御戸張巾長三尺五寸 及三尺六寸

七面大明神拜殿、向拜檜皮葺家根替成就之砌納之、維時慶応元乙丑年九月十九日身延山日祥判形棟札有之、家根更施入之面々、現当願満祈者也、

当山院代妙衣院日忍聖人 世居人大島村葉山喜兵衛

時別当是諦院日研聖人 大工棟梁小倉源八良常延

世話方是感院日行聖人 仕 手幸吉 豊太郎

同摩阿妙俊院日寿聖人 檜皮屋根師池上平兵衛

同之阿智運院日顯聖人 仕 手文蔵万兵衛常吉

西時之阿鳩頭樹院日彦 柚木挽頭深沢半七郎

(110オ)

(109ウ)

世話人中 二世安楽 仕 手民右衛門
本願人中 木挽仕 村角兵衛兼蔵吉兵衛

永代常経金拾兩扇州藩中永平六太夫 慶成三卯十一月納之 祥師代

本殿并幣殿銅瓦葺

身延山七面大天女本殿并幣殿家根古来「檜皮葺也 今回銅瓦葺改明治十四年企之」同十八年九月十八日落成吉辰上棟

七十四世日鑑師棟札 同裏書云

七面山八十八世鑰取大善坊三十七世住職

同担当葺更発願主竹之坊三十四世前住 妙賢院日禎聖 智逗院日照聖

同担当大林坊卅三世住職 智光院日彦聖 同募集周旋花之厨三十世 助住 智松院日音聖

同 研島村正徳寺住職 光通院日龜聖 同 增穂村春米 小林小太郎

大本願人 同 望月 義広

世話方 同 望月 康喜

大工棟梁 同 池上伊織宗治

(110ウ)

同亀之丞宗正

杣木挽頭 本建村赤沢 望月 八平

銅瓦師 東京神田岩本町 鈴木 兼吉

有志面々 本願人中 現当二世安染

世話人中

以上ウラカキ 入費金三千六百円

一七面山北杉植木一千本余金井（イ）搦中」信濃國小

県郡尾野山村講元金井延五郎」慶応元年丑年世

話人赤沢村大坂屋（伝右衛門）

一七面山杉植附一千本施主野州栃木妙法連（統搦太）

田弥左衛門発願中適坊住観妙日詠法師（明治十二年南院ニ石）

七月十九日死去 明治十二年七月

廟有之

(112ウ)

△影現七面社

拜殿葺更四十七世日豊師御代棟札無之

安永八己亥八月廿二日始

奉行松林坊順正坊大工定右衛門定之丞（外ニ武人）木

挽安右衛門善右衛門（外武人）屋根屋両右衛門長右衛門

外ニ八人」手伝武人 以上板ニ此書附有之

実師板本尊

安政六己未年八月十九日

身延山諸堂記外（北沢）

(113才上・中段)

当山影現七面宮本社幣殿拜殿檜皮葺更并惣修復

成就之刻

同裏書ニ 院代永寿院日等聖人普賢奉行南延房日禎

是感院日行聖人 武井房日東

妙俊院日寿聖人 法雲房日徳

妙定院日翁聖人 南向坊日周

以上裏書 常住坊日甚

以上裏書

大工棟梁 池上伊織宗治

檜皮家根師 池上主税玄吉

小倉久右衛門

佐野恒兵衛

池上徳之助

佐野友蔵

遠藤喜瀬蔵

〔註〕

(1) この一行、欄外上にあり。

身延山諸堂記外(北沢)

(115オ)

△高座石ノ祖師堂三間半

再建立ハ文政五年 暹師代別当 淨勇日清代企之廿世 淨

詣「日徳廿一世順徳日光代ニ上葺成就ス」

祖師ノ像御宮殿者前有之亨師ノ記録ノ如シ」

緋紋御七条紫御衣ハ大堂ノ祖師ノ古ヲ送ル」

卷経一部

斗張ケマン ニツ」

御宮殿ノ額者御摸本尊ヲ写ス」

大立像ノ釈迦牟尼仏順徳代表更

妙見大士像男子入 江州岩倉村妙盛寺日定師本尊添納

清澄稻荷大明神ノ像別当順徳代形判

清澄稻荷板本尊 暹師形文政五年十月

御鏡施主江戸藏前代地大塚屋金左衛門

同 施主不知」

前机享和元辛酉九月 唯完日忠啓之

鎮三ツ具足 文政十亥五月施主江戸

同 花瓶二ツ 寛政九丁巳四月 唯心日友

焼物香炉一ツ 寛政十年三月 施主肥前 焼付有之

常香盤」

(116オ)

御経机同箱朱塗 嘉永四亥十月 施主顯沢世話人 順徳代

打鳴シ同台 明和六巳丑六月 施主尾州名古屋田中新六 智達日近代

半鐘施主名半鐘ニ有之 敬勝日地代

太鼓台共

唐金茶湯茶碗一通リ

唐金灯籠二基文化乙丑八月 顯文代

鯛口一ツ」

賽銭箱」

〔註〕

(1) 亨師記録之後(頭註)

(2) 亨師代建立祖堂三間半 林藏坊興師堂雖レ送、朽故不

用須弥付左右柱耳用レ之ト云フ(頭註)

△妙法社再建立弘化三丙午十月吉辰上願成候

仲師棟札有之別当順徳日光并棟梁世話人性名裏

書」

立像ノ祖師妙法兩大善神ノ尊像三體」施主江戸池

之端蓮寿亭平七」

御宮殿施主顯沢河津船方中世話人茂右衛門尊威

斗帳」

(116ウ)

(117オ)

妙法大善神板本尊五十五世^{文政五壬午十月}禪師判形
淨明代
妙法同大善神板本尊五十九世^{天保四巳五月}詔師判形

法華經守護之善神^{本尊}板^{本尊}二枚有之

同尊像二体御宮殿二字^{末社櫻ト云フ妙法社ノ左右ニ有之}
宮殿者本院ヨリ下ル

御経并机箱^{小形}梨地^塗外有之^{頭代}

神鏡

金ノ幣四本

神酒瓶子二ツ^{三方共 施主茂村黒船町魚吉}
八王子

燭台真鍮二基

香炬真鍮一ツ

花瓶真鍮

茶湯茶^{（4）}鏡^{（4）}二組^{（4）} 施主吉原三浦屋

前机^{（4）}朱塗 刑沢村掃中

五具足^{（4）}真鍮 文久二壬戌四月 頭代

② 小前机^{（4）}朱塗 二ツ

常香盤^{（4）}朱塗 二ツ小形

神酒瓶子二ツ^{（4）} 施主長谷川庄之助

金ノ灯籠^{（4）}兩基^{（4）} 万延元年申四月
施主大野村松田屋敬左衛門

常香盤^{（4）}朱塗 施主江戸吉原

打鳴シ台共 施主日光道中杉戸宿松島屋猪之治

身延山諸堂記外（北沢）

(118オ)

御経机同箱共^{（4）} 享和四亥十月
施主顯於世話人
鑿同台 施主江戸谷中土方政右衛門

開帳太鼓^{（4）}施主塚原林兵衛

題目太鼓二ツ 施主殿州内木野村新左衛門
東南胡辯（マ）中

水引白地唐木綿

半鐘^{（4）}安政二卯八月
施主名半鐘ニ有之

鰐口

賽銭箱

乘閣同判木同箆^{（4）}二卓引出六十四穴 施主江戸小網町

伊勢屋吉右衛門

幕二張^{（4）}妙法社施主

幟

〔註〕

① 妙法阿尊者ト改ハ明治元^{（4）}戊辰十二月十七日七十世

祥師代別当眞順代〈頭註〉
② 以下三項「末社前」〈頭註〉

△妙石庵再建立

棟札豊師判形 天保元壬申四月十九日
身延山田代高座石妙石庵再建寺有日妙

板本尊判形 是ハ妙法社ノ先社ノ本尊ナリ文化十癸四年三月廿五日
無之 高座石十五世宣旭日生 大工當下町新七

身延山諸堂記外（北沢）

唐金灯籠高座石砌ニアリ元禄十四辛巳九月二日各節判形

籠甲石ノ宝塔并ニツノ具足 靈應院日華師ノ銘文有之
高祖五百五十遺忌之砌文致十一戊子春建

立之

禪激俗ニ水鉢ト云フ 同雨屋 共一式殊師禮札有之 文久二壬戌
年七月新建立施主方戸銀座内平野氏

世話方智心院日蓮聖人

① 六十九世琢師代庵号改三妙石坊三枚続本尊

妙法兩大善神安置維時文久二壬戌年閏八月十五

日奉圖「高祖大菩薩当山初転法輪之旧跡妙石庵

今般改坊号」授与西谷塔中妙石坊二十二世坊号初代即

願日成者也

永代寄附田畑四反七畝廿六步委細位牌ノ裏ニ有之 為真

浄法閑信土菩提宝曆二申二月廿八日去」施主当

② 国西郡寺部村萩野弥市右衛門

庫裏再建七十世祥師棟札板長二尺四寸五分厚サ一寸

高祖大菩薩於当山最初転法輪之旧跡 維時元治元

年甲子十月十三日施入之面々二世安樂祈者也

当山西谷塔中妙石坊庫裏六間半再建成就安泰」守護

之棟札也第廿二世弟子要明院日嚴授与之

同裏書 祖師高座石别当妙石坊者当山三十二世日

省」上人代開基学禅院日逢聖人四世法蓮造立之坊

(118ウ)

(119オ)

(119ウ)

(120オ)

破壊故」天明元丑歲当山四十七世日豊上人棟札十

一世了有日妙代」再建立右坊經年摧朽故文久三癸亥

歲之秋当山」奥院祖師江戸深川於浄心寺開帳之刻

妙法二神」添開帳ヲ願一錢半紙ヲ集而今般再建立

企之同年」十二月十八日新初同四年元治甲子三月廿

一日立柱同六月」廿八日上葺入仏供養令周備了」

再建立世話方本行房是感院日行聖人志摩房妙俊院

日寿聖人」再建立主当房廿二世要明院日嚴房号初代

順德日光」再建施入江戸於深川浄心寺境内 参詣之面々江

戸信者中」浅艸二神辯中本石町妙法中当国信者

中」發起世話人吾孫吉界屋古藤源次郎同所山形屋

荒井喜三郎」本館町和泉屋伊兵衛当国世話人田島村望

月三右衛門河内村佐野藤左衛門」村々世話人中当所

世話人上町遠藤佐左衛門上町池上友兵衛」上町池上新

五兵衛大工棟梁池上友兵衛房清同添棟梁」望月孫

右衛門杣木挽頭遠藤金次郎同父繁藏」茅家根屋塩

沢村浅兵衛重左衛門日履建方頭下町」惣左衛門洗

足村茂右衛門諸職人中 以上裏書

廊下」一式之施主江戸浅艸御馬屋河岸福島屋茂

兵衛

(120ウ)

石灯笼兩基」 施主江戶本所表町淡路屋惣吉」

高座石ノ玉垣慶応二丙寅年」 施主」

慶応二丙寅 八月七日夜大風ニテ六間半ニノ新庫裏皆

潰再建ヨリ
三年目ナリ」

奉納田畑四反七畝廿八分高祖御報恩并真浄法閑信

士」為仏供料宝曆二壬申二月廿八日奉納施主寺

部村伊兵衛」納之永代毎年米五俵宛納之右ノ年

貢也天保八四二月」書附改之田地施主伊兵衛世

話人作兵衛親類政助妙石庵」当住順徳日光様ト
書附有之」

庫裏再建祥師御代棟札日寿認之松坂中」

高祖大菩薩当山最初転法輪旧跡西谷妙石坊庫裏

六間半再建」成就安泰守護棟札也第廿二世弟子要

明院字要徳日殿授与之」維時慶応四戊辰四月八日

吉辰上棟并入仏供養令周備者也」施入面々二世安

楽祈而已巳上

裏書 元治元甲子年成就之房」慶応二丙寅八月七

日八日大風雨故皆潰依之同年九月廿七日再斫」初

同十一月十七日建方同四年戊辰四月八日上棟入仏

令周備畢」廿二世要明院日殿廿一世前任順徳院日

身延山諸堂記外(北沢)

(121ウ)

光臨二神搦江戶妙法搦信者中望月三右衛

門佐野藤左衛門村世話人中大工棟梁池上友兵衛房

清望月孫右衛門棟頭遠藤金次郎同苗繁蔵」家根三河

屋友右衛門建方本郷二神搦中巳上」

祖師堂棟札七十世祥師筆

其三丙戌年」三間半建立右堂

及破壊文政五壬午年時別当浄勇日清代再建企之」天

保年中 廿世浄詣日徳代建方成就廿一世順徳日光

代造作入仏」其節上棟梁札不納今般庫裏再建上棟

ニ付納之慶応四戊辰年

〔註〕

(1) 坊号本尊へ頭註

(2) 棟札へ頭註

△奥院」

吾祖九年裡幾回陟此嶺松杉根石老」堂閣架崖全關衆

遺像神如在望郷跡可憐誰知無垢聖」尚孝順為先口

口日忘拜母

身延山諸堂記外(北沢)

一 二王門惣修復家根替柿板葺 六十九世琢師代企之七十世
祥師代」成就 棟札 慶応二丙寅年 施入面々世話人中 琢師御代別
当所 榑木殿院日順代」 祥師御代別

一 鐘堂 初一再建金之祥師御代院主御本丸本立院尼西院南条組大題目(癸?)
一 鐘堂 嘉永七年寅十一月四日 大地震而皆潰後之元治二乙丑年五月九日新
中一

一 別当寮孝東院庫裏再建 嘉永七年十一月由撰皆潰後之再建(撰師
工池上伊織宗治) 御代別当所院代安政二乙卯年十月大

一 二王門修復之砌棟札七十世日祥判形」
慶応二丙寅年三月廿七日二王門修復丹誠題目」千

部世話人中 裏書云」

時掛り役僧窪之房智運院日頭樋沢坊智章院」日鑑
南向房顯立院日勢 普請方林蔵房詮寿院」日周清

水坊事遠院日甲鏡円房励明院日染」奥院時之別当
職端場坊誠寿院日順」

当所大工棟梁
池上伊織宗治 下山村大工棟梁 榑原丈左衛門郡直」
池上主税玄吉 葛籠沢村大工同 樋沢半之丞知矩」

小倉源八常延 榑岡里村大工同 堀水瀬兵衛」

家根屋棟梁 当所棟頭 初鹿島村木挽頭」
池上平兵衛 望月忠兵衛 望月長兵衛」

佐野恒兵衛 深沢半七郎 佐野勘兵衛」
当所日風方

(123才)

以上棟札裏書」

一 鐘堂 四方棟札再建成就

一 鐘堂 四方棟札再建成就 發起願主本立院殿置遠妙修日行法尼(文久三庚亥年
五月十八日去 御本

一 鐘堂 助願主当国西郡南条組題目(搦)一結 世話方
大奥勤」

一 別当誠寿院日順 普請方俊明院
日選 大工棟梁池上伊織」 榑木挽望月忠兵衛 家
根師佐野恒兵衛 瓦師望月作兵衛以上」

一 明治三庚午年十月十三日安泰守護之棟札也施入面
々」二世安楽之攸(勤野上人)日祥在判 以上棟札」

一 祖師御宮殿再建(文久十三庚寅年)
施主江戸芝中門前中村屋平兵衛母幾女(二天像二体此幾
女ノ施主ナリ) 法号智光院妙泉日行信女(嘉永六癸丑正月廿二
日七十四歳去)

一 唐金ノ水盤 同雨屋」

一 同雨屋再建(施主 当国桃園村長沢寺左衛門施主金一十円別当明院
明治六癸酉十一月手新初同十月成就)

一 奥院題目千部永代執行(文化十二甲戌六月十七日奏師代企之
十二乙亥三月奏師代成就而定之)

一 一再発起執行(文政十三庚寅年三月項師代本尊有之
外ニ村ノ門盛願(二)中本尊同時年号有之)

一 当山奥院祖師堂并廊下拝殿 共惣修復并家根更成就
之砌」納之安泰守護之棟札謹染毫之七十代大教正

日健判形』維時明治六年癸酉十一月八日甲子吉辰上棟施主昨申年東京」開帳中施入面々現当二世安楽祈者也

同裏書 当山奥院」祖師堂惣修復并土瓦家根更并廊下拝殿共惣建テ修復柱入」替又ハ根継中柱并紅

梁新ニ入レ長押ヲ四方共内外二重ニ打廻シ」土台惣入替ノ殿ヲ固メ為レ防ニ雨湿」以テ油丹」塗替之家

根柢板」葺土瓦下地迄成就也施主昨申歲於ニ東京深川淨心寺」三十一」五日ノ間開帳施入之集金ヲ以テ令ニ造營ニ者也 時院代権訓導日球」執事権訓導

日寿同日賀日勢日修日勤日康 別当門前院日感代」普請方日理小林八右衛門楠田右平次八搦取持世話人中 大工棟梁」池上伊織同子息亀之丞家根師池上平土瓦師望月作兵衛日願頭望月十郎以上

兵衛袖木換頭望月忠兵衛

兵衛日願頭望月十郎

以上

〔註〕

(1) 東ノ方 〔頭註〕

(2) 西ノ方 〔頭註〕

(3) 下ニアリ 〔頭註〕

(4) 五間半 〔頭註〕

(5) 棟札 〔頭註〕

(6) 「鐘堂」以下の二行、欄外上にあり。

身延山諸堂記外(北沢)

(7) 棟札二枚共同文 〔頭註〕

(8) 此ツドキ又下ニアリ 〔頭註〕

(124オ)

三光堂棟札 四十七世豊師棟札」

奉再建三光堂維時安永九庚子四月廿日」大工棟梁下町平林貞右衛門宗当脇棟梁上町笠井定之丞」木挽下町望月安右衛門袖狐町望月重左衛門家根屋棟」梁中町小倉両右衛門以上棟札」

三光堂別当大光庵六間半之庫裏再建成就之御納之」

安泰守護之棟札也謹染毫之維時文久三癸亥」十一月十五日吉辰入仏供養再建施入之僧俗男」女二世安楽祈 而日大光庵第十九世志誠日照」授与之賜與身延六十七日塚師棟札有之

同裏書」三光堂別当大光庵庫裏者寛文三癸卯年

第廿」八世日龔上人代新建立也經年摧朽故嘉永七

甲寅」年十一月四日之大地震而皆潰依山切谷埋広地」地平而再建企之文久二壬戌年五月十五日新初」

同年十一月八日立柱同三年癸亥十月二日上棟」同十一月十五日入仏供養令周備了」

再建世話方は感院日行聖妙俊院日寿聖」世話人葉山十之丞古谷善右衛門深沢友兵衛深沢」喜七 大

(124ウ)

(125オ)

身延山諸堂記外（北沢）

工棟梁池上伊織宗治小倉源八常延 杣（註）木挽望月
菊之丞 家根屋佐野恒兵衛以上棟札

祥師坊号本尊維時明治三庚午年閏十月吉辰（註）

当山三光大天子别当大光庵今般改坊号授与之塔
中（註）上之山大光坊第十九世坊号初代志誠日照第二
十世同弟子（註）信明日定者也

三光天子影堂土瓦葺惣修復明治五壬申歲（註）企之大

光坊十九世志誠院日照聖人未滿而遷化ス同（註）六年癸酉

七月八日成就吉辰上棟遷座也（註）

棟札健師当山三光大天子影堂惣修復并土瓦家根
更（註）成就之御納之安泰守護之棟札也維時明治六癸酉
七月（註）八日上棟并遷座之御施入之面々二世安業折
者也

同裏書（註）三光大天子影堂先ハ檜皮家根也多年経

曆而摧朽故ニ今般惣修復新ニ四方（註）工霧除造立土
瓦葺成就令周備了（註）時院代権訓導日珠上人 世
話方権訓導日寿上人（註）同日修上人 普請方玉泉房

普請日理 别当大光坊十九世前住（註）志誠院日照聖
人同廿世現住持信明日定 志願主宮本力之進世話
人中諸職人中 土瓦師伊沼村望月作兵衛以上

〔註〕

（1）「三光堂棟札」は欄外上にあり。

（2）此ノツゞキ又下ニアリ（註）頭註

（3）棟札（註）頭註

（4）本尊（註）頭註・朱字

（5）「祥」を「誠」と訂正。

（6）棟札（註）頭註・朱字

△兒文殊宮三尺六寸再建 七七世祥師棟札（註）

当山上之山兒文殊宮再建成就之砌維時元治二乙丑

五月廿五日（註）再建施主駿州富士郡星山村深沢安兵
衛為心願成就也

同裏書（註）時院代妙衣院日忍聖人世話方志摩房二十

五世（註）妙俊院日寿聖人同上ノ山利堂别当七世春教

日惠（註）普請奉行詮寿院日周事遠院日甲助明院日

染（註）大工棟梁池上伊織宗治池上主税文吉小倉源

八郎常延（註）家根屋池上平兵衛佐野恒兵衛 以上棟

札（註）

△本院法遊日樂僧土誓提為ナリ 星山村深沢安兵衛母本尊遊
△隣院妙門日遊僧女遊修

ス（註）上ノ山経堂普成普建傳大土像三体衣更同人

施主ナリ

(127オ)

一石壇階之切石ノ事

当山二十六代退師一枚本尊ニ寛永九太歲七月良日授与之信士仁藏本尊ハ首題兩尊四ササ三光四大天王大黒天神愛染不動鬼子母十女天照八幡等日蓮大士日蓮形

右勸請ノ内江仁藏法諱蓮心宗門無類信士其先但州之人也佐州金銀山之開基味方但馬守家政之父也寛永九壬申春三月初吾山壇階之切石構營重疊之砌投置一石者附与銅錢一百穴焉故以郡郷雲如來役夫山如集不日成功早况復塚原中興之大壇度也凡高祖佐渡已後之化意余聞之吾祖也十三卷身延抄塚原之処四箇年今又此山五箇年矣可知高祖樓神之旧蹟実出世之本懷本事所願之靈場也故宗祖大菩薩御骨一片分之而令奉持塚原山信士蓮心之満足深信本願者也

慶応三丁卯年十二月七七十世祥師代隨身觀樹院日明写シ来ル依而記シ置ク三門裏ノ石壇建通兩代ニ成就有之此ノ本尊ニ寄ル時ハ佐州仁藏蓮心ノ丹精歎古記可レ改也

石壇修復明治十八年乙酉九月初之監師代施主東京下谷豊住町藤井啓助同妻今女金言七十内寄附

身延山諸堂記外(北沢)

(128オ)

一東照宮ノ社五尺同兩屋三間四方古社ハ三尺五寸四方三門内ノ四尺六寸同雨屋妙正大明神ノ社トスル五十八世環師代再建立發願主重厚院日聖人文政五日正月六日

環師棟札 文政十一年戊子十一月大吉日

同裏書云

当社再建造管奉行僧惠善房觀心院日蓮嘉永七年六月十三日

卅三世本寿院日光智寂房潮運院日惠十三世

松林房太林院日建惠信坊太堂院日棟十一世

光積坊善察日永当社大工魁主

当山天工池上主計致昆清權藏矩懷嘉永七年二月廿二日永輝

同池上織衛玄明以上裏書

東照宮兩屋家根更并惣修復成就棟札七十世祥師維時明治元年十二月吉辰為安泰守護圖以納之

施主春米村小林仁藏喜莊改小太郎普賢菩薩日非信士為心願満足修復之者也

同裏書 普請方(俊明院日選) 時院代順明院日惠聖人(勸明院日染)

執事 妙俊院日壽聖人 大工棟梁池上伊織宗治

觀樹院日明聖人 杣木挽望月忠兵衛

詮寿院日周聖人 日雇頭 勘兵衛

事遠院日甲聖人 会所下役 源右衛門

(128ウ)

〔註〕

(1) 「三庚午」を「元庚辰」と訂正。

(129オ)

△八幡宮本社」

鏡師板本尊 永禄元戊午 六月中旬「鎮護国家之宝殿上葺成就之砌」

裕師板本尊 享保四己亥 春三月廿八日「番神社拜殿為安鎮後鑑拜書此棟札也云爾」

ガウ^カ番神拜殿葺更惣六十両金甲也」内甲廿五兩門前

氏子中 甲三十五兩方丈自納戸補」奉行樋沢坊亭

紹院日隆 大工棟梁池上重良右衛門」宗次同池上

平兵衛宗家 屋根師頭小倉五良兵衛家次己上」

輪師板本尊 宝曆四甲戌 三月十八日「坂上宮内宗

高欽修 是ハ御経部数ノ札也」

豊師板本尊 天明三癸卯 年番神拜殿葺更」

ウ^ニ惣五十六兩一步内甲十六兩二分門前氏子中 奉行本

行房本持院日理 大工棟梁池上伊織」屋弥師頭小

倉内右衛門己上」

奉師板本尊 文化万年第八月十五日」

時世話役麓房本解院日到 普請方潮応院」同南之

房以上是ハ金像ノ台座造立ノ時ナリ」

(130オ)

鑑師代明治十五年八月十五日番神本殿」惣修復并家根替 施主山内支院并当村」惣氏子中 本院自納戸補落成ス」大工棟梁池上伊織宗治同子息亀之丞宗正」樋口勘十郎義高」

(131オ)

△利堂御供所庵ナリ相受村武田栄助強願人也」

豊師本尊 天明二年壬寅 十月十三日当山上之山」鬼

子母神御供所建立主鉢具院淨珠日光法師手打沢」

天明年中初而别当所為御供所」造之是迄ハ御堂

番持也」

祥師本尊 明治三庚午 年閏十月吉辰当山鬼子母」

神十羅利女堂别当所今般坊号授与本尊」名二十如

房」授与之塔中上ノ山」十如坊第七世坊号初代春

教院日惠第八世同弟子春要」日運者也

鑑師本尊 明治十七年五月廿七日上之山鬼子母神

堂香厨」茅葺換落成祈有志善捨信徒中現安後善者

也」書此与之十如坊九世要秀日祝」

(131ウ)

〔註〕

(1) 初造立ハ頭註

(132オ)

- (2) 坊号(本尊)〈頭註〉
- (3) 「第八世」より「日蓮」は抹消している。
- (4) 庫裏茅替〈頭註〉

△上ノ山常唱堂并法久庵惣修復家根替成就砌」明治三^{庚午}十月十三日七十世勅許上人日祥御判」板本尊有之」

右者田地年貢作徳ヲ以テ修復日祥師代手普請ナリ」世話方和泉村大木四良兵衛」
法久庵ノ建具戸障子疊等大光庵主志祥日照丹情也」

常題目堂并庫裏家根替明治十七年^{甲申}六月吉辰施主大坂府下日妙擗中^(イ)世話人難波村」赤松係七法久庵主蓮定日観代」

常題目堂メイラ戸不残新規^{明治十}施主大坂赤松係七^{蓮定代}」
常題目堂土瓦新規葺之明治廿一年^{戊子}五月八日」
旧ノ三月上棟 施主和泉村大木四郎兵衛 法久庵 蓮定日^{伊望月作兵衛}観代」世話方永田祐爾瓦師

[註]

(1) 七十四世鑑師本尊有之〈頭註〉

身延山諸堂記外(北沢)

(133オ)

(2) 七十五世修師代〈頭註〉

(水谷法明坊)

再建棟札 祥師 明治三^{庚午}十月十三日」

奥院高祖大士水谷法明坊^{三開聖良}再建成就砌」法明坊現住誠順日理授与之」

同裏書 発願主^{時奥院別}当誠寿院日順」

助願主 相州高座郡大谷村池田五兵衛ツマ宮女」

大工棟梁池上伊織宗治 杣木挽忠兵衛喜右衛門」

施入之面々二世安楽 以上棟札」

△発軫ノ祖師堂再建家根替皮葺」

身延山逢島祖師堂再建立之砌納之」元文四^{己未}年三月廿八日右棟札ハ日盛ノ筆」棟札從^{高祖}上ノ殿^{五ノ家札奉レ写シ之}」

武井房十七世亨玄院日盛^形三十六代日潮師御代」

天蓋 御施主善智院受法院」

当山発軫之靈場祖師堂家根茅葺更并惣修」復成就之節奉図之維時明治六年^{癸酉}三月十七日」吉辰上棟從^{三開闢}文永十一^{甲戌}六月十七日」今歲当^三六百

(134オ)

身延山諸堂記外（北沢）

(134ウ)

年」之嘉会。施入之面々、信力増進現当二世安樂祈者也。板本尊檜板巾一尺二寸五分大教正七十二世日健判形同裏書云、当番役執事妙俊院日寿聖人、智章院日鑑聖人、顯隆院日勢聖人、円柳房二十四世旭湊院日満聖人、発起本願人浄学日永、茅之施主小田船原村中。

当孤町
世話人

葉山十之丞臣晨

世話人

樋口勘右衛門義守精根村久保田熊吉

若尾栄助信国同村久保田兵右衛門

望月善左衛門宗光同村稻葉佐兵衛

阪上万七徳知永代世話人当孤町
若者世話役

大工棟梁精根村久保田喜右衛門

柚 棟 梁同村佐野丈兵衛

茅家根師本郷村佐野金左衛門

世 話 人同村望月丈左衛門

同 村望月久左衛門

勅化世話人梅平村佐野治郎兵衛

同 村望月直平

以上裏書

田中万右衛門

望月元兵衛

佐野堀吉

(136オ)

△大塔中积迎宝殿

文化二乙丑十二月良辰家根更成就之砌、寄附之面々、当山結衆満山大衆加用人惣町中、世話人竹之房

本如院日定ノ筆板本尊有之

天保十三壬寅五月柿板家根更成就、寄附結衆中満

山大衆中惣町中、世話人大徳院日玄
慈証院日肝妙福坊海運院日

瑞清水房尊院日修ノ筆
板本尊有之

高祖御草庵旧地积迎堂柿板葺屋家更ノ惣修復成

就之節納之維時明治六癸酉年二月、吉辰成弁今歳

從ニ開闢、当二三六百年之嘉会ニ矣、当山七十二世大教

正日健判形板本尊有之、施入面々、当山寺中、并惣町

中真俗貴賤後世

同裏書ニ、時院代東京青山仙寿院十二世体遊院日珠聖人、執事当番

役妙俊院日寿顯妙院日修顯隆院日勢、普請方玉泉

房日理本種房日三、廟守妙福坊智浄、日開、大工

池上伊織宗治、柚木挽望月忠兵衛、家根師、池上

平兵衛佐野恒兵衛以上裏書也

(135オ)

(136ウ)

[註]

(1) 此ノツキ第三ノ卷ニ有之(頭註)

(137オ)

△奥院井水翁願主尾州名古屋白木屋勘七敬白」

余往年祖山奥院ニ參籠ス香厨井華無ク縋素水」ヲ
溪底ニ汲ムヲ半里程其ノ艱難言フ可ラス因テ思
フ」井ヲ穿テ數尋水ヲ得ル時ハ其ノ勞ヲ省キ上ハ
以テ」仏祖ニ奉リ下ハ以テ參詣ニ及セハ其ノ功亦
大ナリ然ト雖」凡絶壁數仞得水甚難故ヲ以テ功ヲ
施スニ暇アラス」郷ニ帰ル明治七年穿工伝七者
ヲ携エ山ニ登功ヲ施」ス既ニ九旬猶水路ヲ得ス空
ク郷ニ帰ル翌年復穿」工同ク登山前功ノ空キヲ憂
エ井ヲ浚テ不止六旬ヲ」経テ遂ニ水脈ヲ得清水涌
出ツ且ツ七面山ノ池水感井」法明兩坊ノ井水ヲ汲
来リ灑キ入ル清水愈涌ク」余喜曰我願既滿衆望亦
足ノ金言亦不虛」乃覆之以屋楳之以欄凡其費六百
円以充善」提無窮資糧云」

明治八年乙亥十月吉辰」

薩師代理日鑑師代 時ノ別当本鏡院日行代成就ナ
リ」

宗祖御宮殿塗更明治十八年乙酉秋 薩師代 別当 要妙代

御兩親同塗替右同時

△三光堂別当大光坊土瓦葺棟札 檜板七十四世 日鑑判形

因支院上ノ山三光堂別当大光坊庫裏土瓦葺更」落

身延山諸堂記外(北沢)

(138ウ)

成之功祈喜捨面々二世安樂明治十二年十月十三日

裏書云 三光堂別当大光坊庫裏十間半」去文久三年

癸亥十一月第十九世志誠院日照」代再建立 今般

明治十二年己卯十月土瓦」葺更成就御納之安泰守

護之本尊也」有志喜捨面々現当二世祈者也」

普請幹事下総飯高村飯高寺住職權少」講義里見日

珠聖人寛保府三十四世之住職 大光坊二十一世兼住職 權少講義鈴木日寿代判形

大光坊執事」鈴木日澄 世話人南巨摩郡 增穂村大町 井上五左

衛門村」井上宗四郎 当可池上与兵衛 瓦師 伊沼村望

月」作兵衛同葺師東京本所小川常吉 世話人 青柳米長利

兵衛」同井上藤吉同内田九十郎同内田藤右衛門 葺米

土屋七郎右衛門 本郷武田定右衛門」同青木重右衛

門 葺子 滝戸峯兵衛久成組中以上 ヲ掛テ

△表門一尺六尺 井門番所九尺三間腰掛」

文久元年 辛酉十月落成 琢師代」

△影向石ノ社 宝曆年間辰師代再建立社経」年」破

壞依之再建企之」

本殿間口 土瓦屋根」

(140オ)

(139オ)

身延山諸堂記外（北沢）

明治廿年^{丁亥} 旧四月十日落成吉辰上棟式」七十
五世日修師代 影向坊火守義伝 世話方」西八
代郡宮原村 』

△太平橋市長

元治二年乙丑年祥師代飯橋破破ニ付今般」

明治廿年^{丁亥}年 七十五世 修師代本橋落成」十二月廿
五日即十一月十一日 吉辰上棟渡初久遠寺
ス 執事久保田日遙 普請幹事初本坊廿五世 支雅日
受』

（最末丁オ）

△当山不易千部本願世話人祖師堂外敷

飯沢宿海野伝之丞 荆沢村市川太右衛門」
同 海野忠左衛門 落合村新津唯右衛門」
同 中込清左衛門 同西ノ程新津又兵衛」
宵御村井上太郎八 和泉村大木新太郎」
同 磯野新太郎 同 大木四郎兵衛」
長沢村齊藤栄次郎 西南胡村安藤三五右衛門」
同新町齊藤半左衛門 甲府町石原幸十郎」
春米村小林五郎作 浅利村（朱季）休」小沢利兵衛」
同 小林八右衛門 木原村（朱季）休」萩原清左衛門」

（最末丁ウ）

当所中町（朱季）休」米山民右衛門 同中町松尾弥市右衛門」
同 池上与兵衛 同下町（朱季）休」日吉平右衛門」
同（朱季）休」橋爪市左衛門 同 佐野金左衛門」
同 望月藤右衛門 狐 町秋山半之丞」
同（朱季）休」遠藤三郎右衛門 計二十七名」

△当山永代毎年正月御年頭辨本願世話人」

長沢村大森権之助 当上町池上重兵衛」
同 所齊藤伊右衛門 同狐町葉山十之丈」
大久保村杉田小右衛門 同 所阪上万七」
長沢村佐久間与市左衛門 同 所望月佐兵衛」
計八名」